

沖縄県委託

なんでもお助け隊TM
NANDEMO OTASUKE TAI

平成19年度



【特産品等分野】実績報告書(概要版)

平成20年3月
株式会社 カルティベイト

1. 事業概要	3
1.1. 事業の目的	3
1.2. 基本方針	3
1.2.1. なんでもお助け隊™の結成	3
1.2.2. 目指す理念	4
1.2.3. 事業実施の背景	4
1.2.4. 事業実施の基本姿勢	4
1.3. 実施概要	7
1.3.1. プロセスモデルの活用	7
1.3.2. 支援プログラムの概要	8
1.3.3. 成果発表イベント「ぷち離島フェア」	9
1.3.4. 派遣回数・派遣人数・開催時間	10
1.3.5. 派遣内容とスケジュール	11
1.4. 本事業における成果と今後の課題・提言	12
1.4.1. 事業の成果	12
1.4.2. 離島活性化における今後の課題	16
1.4.3. より効果的な事業展開に向けた提言	17
2. 島ごとの専門家派遣内容	18
2.1. 本派遣対象離島	18
2.1.1. 伊平屋村	18
2.1.2. 本部町（水納島）	22
2.1.3. 南城市（久高島）	25
2.1.4. 栗国村	28
2.1.5. 久米島町	31
2.1.6. 北大東村	34
2.1.7. 南大東村	38
2.1.8. 竹富町（波照間島・黒島・西表島）	41
2.1.9. 与那国町	44
2.2. フォローアップ対象離島	47
2.2.1. 伊是名村	47
2.2.2. 伊江村	49
3. 成果発表イベント「ぷち離島フェア」	51
3.1. イベント開催結果	51
3.1.1. 開催概要	51
3.1.2. 実施スケジュール	51
3.1.3. 各離島の出展状況	52
4. 資料編	55
4.1. アンケート結果	55
4.1.1. 支援プログラム参加者アンケート	55
4.1.2. ぷち離島フェア参加者アンケート	61

1. 事業概要



1.1. 事業の目的

島嶼地域である沖縄県にとって、離島地域の活性化は、県域全体の均衡ある振興を図る上で非常に重要である。離島の活性化に際しての大きな課題は、各離島が有する素晴らしい魅力（地域資源）を発掘して有効に活用するノウハウの習得と、地域の主体的な取り組みを主導し得る人材の掘り起こし、育成にあるといえる。このため本事業は、特産品開発等の分野や地域おこし支援のノウハウを有する専門家を離島市町村へ派遣することにより、各離島における活性化の取り組みを支援することを目的として実施した。

専門家派遣の対象地域は、伊平屋村、本部町（水納島）、南城市（久高島）、粟国村、久米島町、北大東村、南大東村、竹富町（波照間島、黒島、西表島）、与那国町の9市町村11離島であった。また、昨年度の派遣先で希望のあった伊是名村、伊江村の2村についてはフォローアップの派遣を実施した。

1.2. 基本方針

1.2.1. なんでもお助け隊™の結成

昨年度本事業に引き続き、本年度も特産品等分野において「なんでもお助け隊™」を結成して各離島を訪問した。なんでもお助け隊は、様々な分野で幅広くかつ専門的なアドバイスを提供することが可能なメンバーから構成されている。離島ごとの事情やニーズを踏まえ、それぞれの分野の外部専門家とともに離島を訪問し、講演会、講習会、ワークショップ、個別指導などのプログラムを提供した。



1.2.2. 目指す理念

本事業において目指す理念としての“離島が活性化した状態”とは、以下のとおりである。

・なんでもお助け隊™が目指す理念: 離島の活性化とは

- 島人（しまんちゅ）が元気でイキイキと暮らしている
- 島人が島を愛し、誇りをもっている
- 島人が自分らしさ、地域らしさを大切に、無理をせず、楽しく仕事ができる
- 島の資源（宝）を活かした仕事をする事で、島人の心と暮らしが豊かになる
- 島人のつながりが強くなって、島全体がパワーアップしている

1.2.3. 事業実施の背景

「離島活性化専門家派遣事業」は、内閣府の補助により「美ら島会議」（離島活性化調査検討会議）の一環として沖縄県が実施する事業で、県内離島市町村に特産品や観光、ITなど特定分野のノウハウを有する専門家を派遣し、島の活性化の取り組みを応援するものである。平成17年度からの3カ年事業（単年度ごとの継続事業）で、今年度が最終年であった。

日本全国でこれまで地域おこしを成功させてきた先進事例を見ても、「地域の活性化」とは、本来10年、20年、時には30年という長い時間と多大な努力を要する壮大なプロセスであり、単年度事業で実現可能な「離島活性化」の範囲は自ずと限られてくる。そこで、なんでもお助け隊™では、「10年スパンの将来像を描きながら、そこまでの道のりを設計し、まずは今年度できる第一歩から始める」というスタンスに基づいて事業に臨んだ。

1.2.4. 事業実施の基本姿勢

単年度事業（実質8ヶ月）の制約の中にあっても、離島活性化の第一歩としての実質的な“種まきと芽だし”となるような具体的な成果を上げることを今年度派遣事業の目標とした。

具体的には、後述の「6つの視点」に基づき、島の方々のやる気を引き出し、小さな成功を積み重ねながら、本派遣事業が持続可能な島おこしプロジェクトの端緒となるよう努めた。“人々がやる気になるプロセス”を重視し、ワークショップや講習会、講演会、個別指導などのメニューを臨機応変に組み替えながら適切なタイミングで適切な内容を提供することで、島の方々が、ちょっとしたことに「なるほど、そうか」と思い、「これなら自分でもできる」と自信をつけ、



「もっとやってみよう」とやる気になっていただけるよう支援プログラムをデザインして実施した。その中では、まず島の方々のニーズに耳を傾け、コミュニケーションを充分に取りながら、皆さんが本当に必要としている知識や技術を見極めて提供するよう心がけた。

“プロセスを重視する”とは、具体的には例えば、ワークショップを開催して自分たちにとって「何が問題なのか」「何がやりたいのか?」「なぜやるのか」を明確にして意識づくりを進め、講演会や講習会で知識・技術を習得し実践し、その後、次なるステップとして皆で新しい目標を設定し、さらなるアドバイスによって知識・技術を得る…というプロセスを意図的にデザインすることで事業効果を高めるということである。

1) なんでもお助け隊™が重視する6つの視点

上記の基本姿勢に基づいて事業を実施に移すにあたり、以下の6つの視点を重視した。

①「やる気と自信が原動力」

- ・平成18年度本事業実施の経験から確信したことは、「すべての原点は“人”にある」——島の活性化を担う人々にやる気がなければ、それから先の10年スパンの取り組みはありえないという点である。人がやる気になるきっかけは、小さな成功の積み重ねによる「自信」であり、これら「やる気と自信」が、「自分で行動する」という自発的姿勢につながり、島おこしの原動力となるといっても過言ではない。

②「島人(しまんちゅ)とともに島の“歩幅”で」

- ・けっして背伸びをせず身の丈にあった地域づくりを基本に、借り物や新しく手に入れるものではなく、「人」「自然」「文化」など今、確かに存在している島の資源に、島の人自らが手を加えることで付加価値をつけ、商品やサービスを生み出して行くことが離島活性化の基本であり、島人の“歩幅”で楽しく実行・持続可能であることが大切である。

③「プロセスの重視」

- ・外国のことわざ(右図)にあるように、人にとっては、失敗や成功を重ねながら自身で体験、発見したことのみに本当は自分の糧となるものである。ある人の学びにとっては、成果そのものはもとより、それに至るプロセスの方がさらに重要であるということである。この“プロセス志向”の観点から支援プログラムをデザインすることが必要である。

聞いたことは、忘れる。
 見たことは、思い出す。
 体験したことは、理解する。
 発見したことは、身につく。

④「コミュニケーションが出发点」

- ・地域活性化がうまくいっていないほとんどの島で指摘される問題点が「コミュニケーション不足」である。島の人同士(行政vs民間、先輩世代vs若い世代、同業者間等々)の認識の共有や意思の疎

通が図られていないと信頼感も生まれない。さまざまなしがらみを乗り越えてコミュニケーションを図る勇気が、島おこしのはじめの一步といっても過言でない。本事業のプログラムを通して、できるだけ多くの機会にできるだけ多くのコミュニケーションを図ることが、実は、後々皆で心を合わせてアクションを起こす際の潤滑油となるようである。

⑤「信頼関係を大切に」

- ・島の人同士のみならず、島の人とお助け隊員の信頼関係もまたたいへん重要である。事前ヒアリングにおいて役場の担当者みならず島の皆さんにも集まっていただいて話をすることや、講演会やワークショップの場、その後のノミネーションや合間合間のおしゃべりなど、コツコツと対話を重ねることでお助け隊としての意図を理解していただくことが、事業の成否を大きく左右する。

⑥「その時、その場で起こることを大切に」

- ・まさに、一期一会。島の皆さんは、仕事はもちろん行事や会合に毎日たいへん多忙であり、訪問のたびに同じメンバーに参加いただくことは不可能に近い。であれば、その時に参集いただいた皆さんと、その場で起こることの一つ一つを大切にすることが結果的に成果につながるはずである。

2) なんでもお助け隊™活動基本方針

以上のことを踏まえ、お助け隊活動の基本方針を示す。

・なんでもお助け隊™活動基本方針

- 島の人と一緒に“島の歩幅”で考えよう！
- 島の人の本音を引きだそう！
- 島の人の本気を引きだそう！
- 島の人と「本当にやりたいこと」を一緒に見つけよう！
- 島の良さを発見・確認するお手伝いをしよう！
- 現場に足を運んで実践的なヒントを提供しよう！
- 相手に喜ばれることで得られる仕事の喜びをたくさん味わってもらおう！
- 島の暮らしがもっともっと楽しくなるように応援しよう！
- みんなでワクワクしよう！



1.3. 実施概要

1.3.1. プロセスモデルの活用

1) 離島活性化のプロセス

- ・なんでもお助け隊™では、まず仮説として離島の活性化のプロセスには以下のA.～E.の5つのステップが重要だと考えた。

A.「方向づけ・動機づけ」

B.「参画の場、コミュニケーションの場づくり」

C.「合意形成」

D.「実践(ノウハウ/スキルの習得)」

E.「達成・評価・改善」

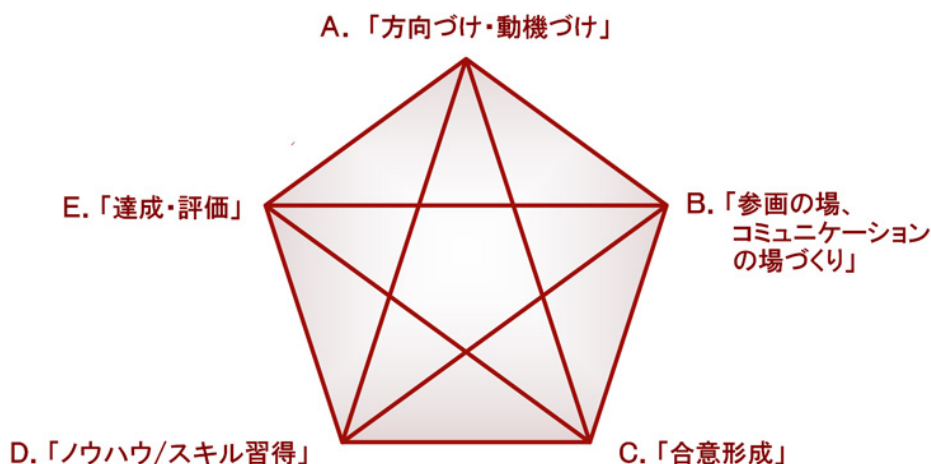


- ・しかしながら、昨年度からの事業実施の現場で、これらは必ずしも、A.→B.→C.→D.→E.と順序よく進むものではなく、島々の状況に応じてA.～D.のプロセスを行き来しながらE.を目指すことが効果的であるとの経験的認識が得られた。

2) 離島活性化の「五角形モデル」

- ・そこで、より臨機応変に支援プログラムをデザインして適切な内容を提供できるように、島がどのような経緯を経て、現在どのようなポジションにあるのかを知るための視角化ツール「離島活性化の五角形モデル」を考案してこれを活用した。

【離島活性化の五角形モデル】



- ・このモデルにより、まずは事前ヒアリングを通して島の状況を把握し、A.～D.のどこから着手するかを決定して、その後どのようなプロセスを経てE.に到達するかを検討することを心がけた。

1.3.2. 支援プログラムの概要

なんでもお助け隊™は、専門家の派遣にあたり、講演会、講習会、ワークショップ、個別指導、ヒアリングといった、ある程度定型化されたメニューを準備し、これらを組み合わせて、事前派遣、第1次派遣、第2次派遣（島によっては第3次派遣まで）などの支援プログラムをデザインした。

1) 各メニューの位置づけと役割

① 講演会

- ・それぞれの分野で実績のある専門家による講演会。おおむね20名以上の参加者を対象に、先進事例や一般論などについての講演を行う。対象者層・人数を広げることで、当該分野（特産品やツーリズムなど）に関する島民の理解促進・普及を図ることなどを目的とする。



② 講習会

- ・特産品等分野における実践的な技術やノウハウを伝授する講習会。すでにワークショップ等に参加して「なぜこの技術を習得するのか」の意義付けができていることを前提に、おおむね20名以内の参加者を対象として実施する。ひとつの技術やノウハウを習得することが各自の自信となり、次のステップへの足場固めとなるよう実践的なものとする。

③ ワークショップ

- ・島おこしの中心的役割を担うメンバーを中心におおむね20名以内の参加者を対象として、意識の共有や方向性の確認、実践するアクションについての合意形成などを目的に実施する。講演会、講習会、個別指導と組み合わせることで、問題意識やとるべきアクションがより明確になる。一連の話し合いに参加することで、島に横たわる日常の問題点を乗り越えて一歩前進するための勇気とやる気生まれるという効果が期待できる。1回のワークショップの基本的な流れは以下のとおり。

- ア. 自由に安全に公平に想いの丈を述べるができる場、人の想いを聴くことのできる場を作る
- イ. ロ々に述べられた想いを整理しながら、建設的で前向きな方向性を引き出し、個々の想いを一つに紡ぐ
- ウ. 参加者それぞれの島おこしへの熱い想いと、実現への道のりのイメージを整理された枠組みの中でみんなで共有する
- エ. 気軽に取り組める最初の一步のアクションと短期目標について合意を図る



④ 個別指導

- ・一連の支援プログラム参加者の中でも、特にやる気の高いメンバー（おおむね数名以内）を対象に、派遣専門家が個別にアドバイスを提供。個々の「なぜ?」「どうやって?」に対応して「知りたかったノウハウ」を提供することで中心的役割を担うメンバーのやる気をさらに高めることができる。

⑤ ヒアリング

- ・通常のインタビュー形式によるヒアリング。役場担当者や一部のキーパーソンを対象におおむね数名以内で実施する。

2) 各メニューの組み合わせによる相乗効果

(1) 講演＋ワークショップ:「ウチの島だったら」を考える実践的機會

- ・講演・講習の内容をより具体的・実践的に身につけるため、専門家によるスピーチの後、その講師をそのままアドバイザーとして迎えてワークショップを開催することにより、たった今聞いた話をもとに参加者全員で「ウチの島だったら」を考える機会とすることができる。
- ・一般的な講演会後の質疑応答では、質問内容が飛び飛びになる可能性があるが、ワークショップの中で話題を体系的に整理しながら質疑応答を行うので、建設的なやりとりが可能になる。

(2) 事前コミュニケーションの重視

- ・一連の支援プログラムを実施するにあたり、事前ヒアリングにおけるコミュニケーションを重視した。このため、初回訪問時においても、ヒアリングのみならず、市町村の担当者の皆さんにお願いして、島の活性化を担う中心人物の方々にできる限り参加していただき、ワークショップ形式で話し合いを持つように心がけた。
- ・これにより島内でどのような方々が活動しているのかを把握できると同時に、役場を含め島の中心的役割を担う皆さんとの信頼関係を築くよう努めた。結果的にこの信頼関係をうまく築くことができたかどうか、今年度事業の離島ごとの成果の違いに大きく影響を与えたと考えられる。



1.3.3. 成果発表イベント「ぷち離島フェア」

- ・一連の支援プログラム実施の締めくくりとして、本事業の成果を形にして発表するとともにテストマーケティングを行うこと、離島間の交流を図ることなどを目的として、特産品開発分野の離島を中心に参加者を募り、沖縄都市モノレール県庁前駅構内において物産展「ぷち離島フェア」を開催した。



1.3.4. 派遣回数・派遣人数・開催時間

今年度事業における派遣対象離島は、11市町村の13離島（うち伊是名村・伊江村は昨年度のフォローアップ）で、総派遣回数は2007年8月30日～2008年3月31日までの7ヶ月間で32回であった。お助け隊・外部専門家の総派遣人数はのべ84名で、各離島の事前～第3次までの派遣における支援プログラム総開催時間は167時間であった。ただし、成果発表イベント「ぶち離島フェア」は積算に含んでいない。

また、今年度は、日本の最西端（与那国島）、最南端※（波照間島）、および沖縄県の最北端※（伊平屋島）、最東端（北大東島）の地を巡ることができた。

※有人島として

◇離島ごとのお助け隊・外部専門家派遣人数・派遣回数

No.	市町村	島名	事前	第1次	第2次	第3次	派遣人数計	派遣回数
1	伊平屋村		2	4	2	3	11	4
2	本部町	水納島	3	3	2		8	3
3	南城市	久高島	2	3	3		8	3
4	粟国村		2	2	3	1	8	4
5	久米島町		2	3	2		7	3
6	北大東村			4	2	2	8	3
7	南大東村		2	5	2		9	3
8	竹富町		2				2	
		波照間島		4			4	
		黒島		4			4	
		西表島		2			2	
		竹富町 合計	2	10			12	4
9	与那国町		2	3	3		8	3
10	伊是名村			3			3	1
11	伊江村			2			2	1
	総計		17	42	19	6	84	32

◇離島ごとのプログラム開催時間数

	市町村	島名	事前	第1次	第2次	第3次	開催時間計
1	伊平屋村		5.5	6.5	15	4	31
2	本部町	水納島	4	11	2		17
3	南城市	久高島	2	5	3		10
4	粟国村		2	3	5	3	13
5	久米島町		2.5	9	3		14.5
6	北大東村			12.5	10.5	2	25
7	南大東村		4	16.5	9		29.5
8	竹富町		1.5				1.5
		波照間島		4.5			4.5
		黒島		3.5			3.5
		西表島		2.5			2.5
		竹富町 合計	1.5	10.5			12
9	与那国町		2.5	5	2.5		10
10	伊是名村			3			3
11	伊江村			2			2
	総計		24	84	50	9	167

1.3.5. 派遣内容とスケジュール

今年度事業における派遣内容とスケジュールは以下のとおり。各プログラムにおける総参加者数はのべ561名であった（フォローアップ2島の33名含む）。ただし、成果発表イベント「ぷち離島フェア」は積算に含んでいない。

◇本派遣対象離島（9市町村 11離島／計 30回派遣／のべ 528名参加）

派遣	日付	時間	種類	内容	外部専門家	参加者数
伊平屋村						
事前	2007年09月25日(火)	17:00～20:00 (3h)	ワークショップ	島の活性化に関する自由討議と事業内容の検討		5
	2007年09月26日(水)	09:00～11:30 (2.5h)	ワークショップ	島の活性化に関する自由討議と事業内容の検討		5
第1次	2007年10月12日(金)	18:00～22:00 (4h)	講演会&ワークショップ	売れる商品の作り方 伊平屋編+ムーンライトマラソンのチャンスを活かそう①	伊敷豊	7
	2007年10月13日(土)	09:30～12:00 (2.5h)	ワークショップ&個別指導	ムーンライトマラソンのチャンスを活かそう②+個別指導	伊敷豊	6
第2次	2007年10月26日(金)	13:00～19:00 (6h)	個別指導	ムーンライトマラソン実地指導・サポート		6
	2007年10月27日(土)	14:00～17:00 (3h)	個別指導	ムーンライトマラソン実地指導・サポート		6
	2007年10月28日(日)	08:00～14:00 (6h)	個別指導	ムーンライトマラソン実地指導・サポート		6
第3次	2008年03月11日(火)	15:00～18:00 (3h)	講習会	パッケージデザイン		3
	2008年03月12日(水)	08:00～09:00 (1h)	講習会	パッケージデザイン		1
本部町						
事前	2007年10月18日(木)	11:00～13:00 (2h)	ワークショップ	島の現状とお助け隊事業の内容検討	伊敷豊	12
		13:30～15:30 (2h)	個別指導	ノニ茶・ノニジュースに関するアドバイス	伊敷豊	3
第1次	2007年12月07日(金)	14:00～16:00 (2h)	その他	事前視察	坂本昭司	0
	2008年01月11日(金)	10:30～18:00 (7h)	講習会	島の黒豆を活かした料理講習会	坂本昭司	12
	2008年01月12日(土)	09:30～11:00 (2h)	講習会	島の黒豆を活かした料理講習会	坂本昭司	12
第2次	2008年02月29日(金)	15:00～17:00 (2h)	個別指導	商品化に向けたアドバイス		2
南城市						
事前	2007年08月30日(木)	15:00～17:00 (2h)	ヒアリング	現状調査とテーマ設定		2
第1次	2007年12月18日(火)	15:00～18:00 (3h)	講演会&ワークショップ	「もしも」の時に備えよう！	伊佐真人	18
	2007年12月19日(水)	09:30～11:30 (2h)	講習会	緊急救命対処法	島尻消防署	14
第2次	2008年02月17日(日)	13:00～16:00 (3h)	講習会&ワークショップ	体験型観光向けの保険	大城敏夫	6
粟国村						
事前	2007年09月28日(金)	13:30～15:30 (2h)	ワークショップ	粟国のツーリズムに関するヒアリングと事業内容の検討		7
第1次	2007年11月06日(火)	15:00～18:00 (3h)	ワークショップ	“粟国ツーリズム”で島おこし！		13
第2次	2008年01月09日(水)	15:00～17:00 (2h)	講演会	“粟国ツーリズム”で島おこし！	津嘉山千代	45
		19:30～22:30 (3h)	ワークショップ	“粟国ツーリズム”で島おこし！	津嘉山千代	14
第3次	2008年01月16日(水)	20:00～23:00 (3h)	その他	旧正月の粟国をPR！		10
久米島町						
事前	2007年10月02日(火)	15:00～17:30 (2.5h)	ワークショップ	現状調査と目標設定		9
第1次	2007年11月05日(月)	14:00～17:00 (3h)	ワークショップ	久米島の中小製造業者が元気になる心おこし、心あわせ！		8
	2007年11月09日(金)	11:00～14:00 (3h)	個別指導	中小製造業者向け事業展開アドバイス	伊敷豊	1
		15:00～18:00 (3h)	個別指導	中小製造業者向けパッケージデザイン等アドバイス	伊敷豊	1
第2次	2008年02月18日(月)	15:00～18:00 (3h)	ワークショップ	ぷち離島フェアへの出展に向けて		6
北大東村						
第1次	2007年10月19日(金)	19:00～22:00 (3h)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり初級・中級	星公望	8
	2007年10月20日(土)	09:30～12:30 (3h)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり中級・上級	星公望	6
		15:00～16:30 (1.5h)	ワークショップ	子ども向けおもちゃづくり	星公望	27
	2007年10月21日(日)	09:30～12:00 (2.5h)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり上級	星公望	3
		13:00～15:30 (2.5h)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり上級	星公望	4
第2次	2007年12月14日(金)	19:00～22:30 (3.5h)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり初級・上級	星公望	6
	2007年12月15日(土)	09:00～12:00 (3h)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり上級	星公望	2
	2007年12月16日(日)	19:00～23:00 (4h)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり上級	星公望	6
第3次	2008年02月11日(月)	19:00～21:00 (2h)	ワークショップ	島の植物を活かした手工芸品の商品化		4
南大東村						
事前	2007年10月03日(水)	16:00～17:00 (1h)	ヒアリング	ヒアリング		1
		17:00～20:00 (3h)	ワークショップ	事業の説明と日程調整		12
第1次	2007年10月14日(日)	15:00～17:00 (2h)	ワークショップ	子ども向けおもちゃづくり	星公望・星昭子	29
	2007年10月15日(月)	10:30～12:00 (1.5h)	ワークショップ	高齢者向けおもちゃづくり	星公望・星昭子	12
		19:00～21:30 (2.5h)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり初心者向け	星公望・星昭子	15
	2007年10月16日(火)	19:00～21:00 (2h)	講習会	手工芸品づくり指導者養成講座①	星公望・星昭子	20
	2007年10月17日(水)	19:00～21:30 (2.5h)	講習会	手工芸品づくり指導者養成講座②	星公望・星昭子	20
	2007年10月18日(木)	09:00～15:00 (6h)	講習会	手工芸品づくり指導者養成講座③	星公望	6
第2次	2007年12月18日(火)	19:00～22:00 (3h)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり上級	星公望	6
	2007年12月19日(水)	19:00～22:00 (3h)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり上級	星公望	10
	2007年12月20日(木)	14:00～17:00 (3h)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり上級	星公望	6

派遣	日付	時間	種類	内容	外部専門家	参加者数
竹富町						
事前	2007年09月11日(火)	12:00～13:30 (1.5h)	ヒアリング	現状調査		1
波照間島	2007年12月15日(土)	19:00～21:00 (2h)	講演会	離島ツーリズムの魅力と課題＋ツーリズム受入時の法規と保険	下平久人・竹内栄二	20
	2007年12月16日(日)	09:30～12:00 (2.5h)	ワークショップ	体験滞在交流型観光 波照間のケースを考える	下平久人・竹内栄二	4
黒島	2007年12月16日(日)	19:00～21:00 (2h)	講演会	離島ツーリズムの魅力と課題＋ツーリズム受入時の法規と保険	下平久人・竹内栄二	8
	2007年12月17日(月)	09:30～11:00 (1.5h)	ワークショップ	黒島のケースを考える	下平久人・竹内栄二	4
西表島	2008年03月20日(木)	14:30～17:00 (2.5h)	ワークショップ	西表らしさを活かした滞在型・体験型のツーリズムの今後		6
与那国町						
事前	2007年09月11日(火)	18:00～18:30 (0.5h)	ヒアリング	現状調査		1
		20:00～22:00 (2h)	ワークショップ	現状調査とテーマ設定		8
第1次	2007年11月16日(金)	17:00～19:00 (2h)	その他	ヒアリング調査・現状視察	山城克己	1
	2007年11月18日(日)	13:00～16:00 (3h)	講演会&ワークショップ	修学旅行の受入を考える	山城克己	20
第2次	2008年03月31日(月)	19:30～22:00 (2.5h)	講演会&ワークショップ	修学旅行の受入を考える	山城克己	12

◇フォローアップ対象離島(2 市町村 2 離島／計 2 回派遣／33 名参加)

派遣	日付	時間	種類	内容	外部専門家	参加者数
伊是名村						
第1次	2008年03月18日(火)	17:00～20:30 (3h)	講演会&ワークショップ	修学旅行の受け入れについて	山城克己	20
伊江村						
第1次	2008年03月17日(月)	19:00～21:00 (2h)	ワークショップ	漁協観光部会の体制固め		13

1.4. 本事業における成果と今後の課題・提言

1.4.1. 事業の成果

これまで述べた「6つの視点」、「プロセスモデル」等に基づき派遣事業を実施した結果、有形無形のさまざまな成果を上げることができた。以下に、参加者アンケートの声や支援プログラム・成果発表イベントの実施結果などから、それらの成果について検証する。

1) 参加者の声に見る本事業の成果(「6つの視点」からの検証)

◇「ぷち離島フェア」実施後のアンケートより

・ Q : 今回のぷち離島フェアの出展の成果は？

。身近にある物も工夫次第で島の特産になるということ。人まかせではなく自分から率先していくと必ず成果はあるのだと思う。さらに頑張ろうという気持ちがいってきました。(北大東島・女性)

。黒豆りんごジャムを教えていただき、島の婦人会で何度か試作し、素晴らしい特産品が完成し、間近でお客様の反応もうかがうことができ、本当によかったと思



います。島が活性化しそうな予感がしました。

(水納島・女性)

◦ お助け隊の皆さまに指導を受けできあがった商品を、教えてくださったとおりにするだけではなく、それにつながる商品を何点か考えて一緒に出展できたこと。 (水納島・女性)

◦ 他の離島との交流で商品の見せ方の勉強になった。 (伊平屋島・女性)

◦ 試食への反応がよく見えた。バイヤーと接触できた。 (伊平屋島・男性)

・ Q : これまでの「なんでもお助け隊™」派遣全体を振り返って、あなたや島にとって何が成果となりましたか？

◦ 商品売る場合のターゲットを決めることで、売れる商品を作り出せることがわかりました。 (伊平屋島・女性)

◦ 商品化への取り組み方の確立 (伊平屋島・男性)

◦ 今、島でできることが見つかりました。 (水納島・女性)

◦ 今までバラバラだった島の人が一つにまとまることができました。(お助け隊の皆さまのおかげです) (水納島・女性)

◦ 島の業者で互いの意見交換ができた。 (久米島・女性)

・ Q : 「なんでもお助け隊™」派遣で何が一番印象に残りましたか？

◦ いきなり 1 ヶ月もない短い時間を調整して快くムーンライトマラソン出展デビューさせてくれたことです。今までの講師の先生方だったら結果だけを聞き、その場の状況を判断しますが、いっしょにやることでその場の対応の仕方もお助け隊で教わった (伊平屋島・女性)

◦ 島人以上に島のことを考えていただけたこと。感謝！ (水納島・女性)

◦ 島の良さを引き出して島のことを一緒に（それ以上に）考えていただけたこと。 (水納島・女性)

◦ 各離島、みんな想いがあるのでみんな一生懸命で刺激されました。交流できたのも良かったです。 (久米島・女性)

・ Q : その他「なんでもお助け隊™」に対してご自由に

◦ (最初に)「何がしたい？」と聞いてくれたことがとても嬉しかったです。「実践させてくれます

か？」という言葉に快く応えてくれて、商品まで作り出すことができました。（伊平屋島・女性）

◦ 独学では学べないノウハウ等いろいろなことを吸収して離島の可能性を確信することができました。同様の事業が今後もあることをのぞみます。（伊平屋島・男性）

◦ いつも前向きでとても励まされました。今回のぷち離島フェアもとても不安でしたが、参加でき、第一歩が踏み出せたように思います。（水納島・女性）

◦ いろいろと励まされ感謝でいっぱいです。（水納島・女性）

◦ 個別指導も良かった。（久米島・女性）

◦ 同事業を（3年～10年）で続けて欲しい。（久米島・男性）

◇アンケート結果にみる本事業の成果

・ 上記を要約すると、以下の点がこのアンケートから見えてくる本事業の成果と考えられる。＜カッコ内は対応する「視点」。

◦ 自分で考えて自分で行動するという自発的な努力の成果が次なるステップへの自信とやる気につながっている。＜「やる気と自身」「プロセスの重視」＞

◦ 自分で実践した結果が自分の糧となった。＜「プロセスの重視」＞

◦ 例えば商品開発の具体的な手法を“体験的に”理解できた。＜「プロセスの重視」＞

◦ 他の離島の人々との交流が大きな刺激になった。＜「島の歩幅」「コミュニケーション」＞

◦ 「今のままの島でもできることがある」ということがわかった。＜「島の歩幅」＞

◦ 自分の島の可能性を実感できた。＜「島の歩幅」＞

◦ 島の人同士の意識の共有が図れた。＜「コミュニケーション」＞

2) 各支援プログラムの成果(「プロセスモデル」からの検証)

- ・上記の他、各離島で実施した各種支援プログラムの結果としての主な成果は以下のとおり。＜カッコ内は対応する「プロセスモデル」＞

◇特産品分野

- 島の高齢の農業従業者に負担をかけない、黒豆を使った特産品が開発され、高齢者の生産意欲が高まった。(水納島) <「方向付け・動機付け」「合意形成」>
- 行政担当者と民間事業者の意思の疎通と連携が始まった。(伊平屋島・久米島) <「コミュニケーションの場づくり」>
- 中小製造事業者が自主的な会合をもって勉強会を始めた。(久米島) <「コミュニケーションの場づくり」>
- 身近にある植物を活かした手工芸品が商品化され、自分で作る喜びを提供できた。今後継続的に生産販売していくためのチームが生まれた。(北大東島) <「ノウハウ／スキル習得」「参画の場づくり」>
- 主婦を中心に手工芸品づくりの講習会に多数の参加があり、継続的な取り組みのための勉強会が結成された。(南大東島) <「ノウハウ／スキル習得」「参画の場づくり」>
- 伊平屋港ターミナルビルにおいて、ムーンライトマラソンのイベントにあわせて特産品店が開店した(予定のあった事案にアドバイスを提供して開店を促進した)。その結果、近隣の売店にもいい刺激となった。(伊平屋島) <「ノウハウ／スキル習得」「達成」>

◇ツーリズム分野

- 宮古島で頑張っている津嘉山千代さんの講演会を聴くことで、島民のツーリズムに対する意識が高まった。(粟国島) <「方向付け・動機付け」>
- これまで会合をもったことのない民宿関係者が初めて会合をもち、旧正月の観光客受入サービス向上について話し合いをし、結果として旧正月行事「マースヤー」のガイドマップが作成された。(粟国島) <「合意形成」>
- 各々体験滞在型観光のプログラムを実施しているメンバーが集って島の観光について考える機会を提供した。(久高島) <「コミュニケーションの場づくり」>
- すでにスタートしている島の体験滞在型観光が直面しているリスク管理の問題に対してピンポイントのアドバイスを提供した。(久高島) <「ノウハウ／スキル習得」>
- 既存のマス型観光事業者とエコツーリズム事業者が同じテーブルについて組織や受け入れ体制、ルール作りなど、滞在型観光の推進に向けた合意が形成された。(西表島) <「合意形成」>
- 修学旅行の受入予定がありながら受け入れ体制が整っていないという状況に対して、伊江島の

先進事例の情報提供と意識共有のためのコミュニケーションを支援し、修学旅行受入に関する合意が形成された。(与那国島・伊是名島)

<「合意形成」>

- ・活動が停滞していた伊江村漁協の観光部会事業(修学旅行の体験プログラム受入等)について、今後の推進における中心人物と役割分担を明確にし、事業推進の合意を促した。(伊江島)

<「合意形成」>

1.4.2. 離島活性化における今後の課題

- ・本事業を通して離島活性化の現場を重ねることにより、以下の特徴が見えてきた。今後の離島活性化策における課題は、いかに島ごとの活性化の進展具合に応じて適切な支援を設計して講じられるかということである。

1) 活性化のステージとその特徴

① 活性化が始まっている地域に共通していること

- ・今回訪問した離島以外で、エコツーリズムや民泊など何らかの分野で活性化が進み、先進事例となっている地域の特徴を考えると、以下の傾向がうかがえる。
 - ・覚悟を決めたリーダーと、支える人々がいる。
 - ・戦略的に取り組んでいる。
 - ・地域資源を有効に活用している。
 - ・常に情報発信している。
 - ・外部の人間をうまく活用している。
 - ・人的ネットワークを大切にしている。
 - ・様々な国・県の事業を活用している。

② 活性化していない地域に共通していること

- ・これに対して、今回訪問した離島も含めて、活性化がなかなか始まらない地域に共通している特徴には以下の傾向がうかがえる。
 - ・お上や誰かがやってくれると思っている。
 - ・役場と民間のコミュニケーションがうまくいっていない。
 - ・古くからのつきあい、しがらみから抜け出せていない。
 - ・せっぱ詰まっていない。危機感がない。
 - ・何をどのようにしたらいいかわからない人が多い。
 - ・チャレンジ精神が弱い(失敗が怖い、自信がない)。

2) 活性化の進展度に応じた支援策を

- ・島によって「活性化が始まっている」のか、「まだ始まっていない」のかステージが違うため、それぞれのステージに適した支援が必要だと考えられる。それぞれに考えられる支援は以下のとおり。

① すでに活性化が始まっている島には…

- ・戦略的取り組みへの中長期的応援
 - 例えば観光分野であれば、戦略づくり、地域資源の評価、コーディネイター機能を有する組織づくり、地域資源を活用した差別化とプロモーション、住みよい地域環境の整備、域内連携促進といった専門的なノウハウの適切なタイミングでの提供等々。
 - 特産品分野であれば、マーケティングやブランディングの一般的な知識と具体的な手法などの提供をはじめ、生産・販売体制などに関する島内の連携体制構築の支援等々。

② まだ活性化が始まっていない島には…

- ・活性化のきっかけづくり
 - まずは、役場や民間など島内コミュニケーションの促進。建設的な話し合いを重ねることからスタートすることが重要。その中で、理念、目的、目標、現状認識（危機感）を共有してチームワークで行動が起こせるよう促す。
 - また、地域活性化の立役者といわれる「ばか者、よそ者、若者」への支援やモデルケースづくり（成功体験）、そしてノウハウ・スキルの提供（講演会等）などにより活性化の種まき、芽出しを行う。

1.4.3. より効果的な事業展開に向けた提言

1) やる気の高い地域で成功事例をつくる

離島振興の方策を考える場合、限られた予算の中ではすべての離島を対象とすることは不可能であり、効果的な施策の実施には選択と集中が必要である。昨年度からの事業実施の経験を通して感じられるのは、「島ごとの取り組みの温度差の違い」である。明確に「これがやりたい」という目的・目標をもった中心メンバーがいる島は、明らかに展開が早く、参加者の主体性も確保しやすい。逆に「とりあえず誰かがやるだろう」という意識の島では、事業をこなすことが目標となり、本来あるべき取り組みはスローダウンしがちである。確かに、多くの離島を抱える本県において、島々をおしなべて振興することは必要であろうが、限られた財源の中で最大限の事業効果を上げるためには、まずはやる気の高い地域に多くの支援を注入して成功事例をつくり、その手法を他の地域に援用する方が、結果的に全体の振興の近道になると考える。したがって、今後の施策展開の中で同様の事業を実施する場合、派遣先離島の事前選考制を検討することが望ましいのではないだろうか。

2. 島ごとの専門家派遣内容



2.1. 本派遣対象離島

2.1.1. 伊平屋村

1) 派遣概要

(1) スケジュール

派遣	日付	時間	種類	内容	外部専門家
事前	2007年09月25日(火)	17:00～20:00 (3時間)	ワークショップ	島の活性化に関する自由討議と事業内容の検討	
	2007年09月26日(水)	09:00～11:30 (2.5時間)	ワークショップ	島の活性化に関する自由討議と事業内容の検討	
第1次	2007年10月12日(金)	18:00～20:00 (2時間)	講演会	売れる商品の作り方 伊平屋編	伊敷豊
	2007年10月12日(金)	20:00～22:00 (2時間)	ワークショップ	ムーンライトマラソンのチャンスを活かそう①	伊敷豊
	2007年10月13日(土)	09:30～11:30 (2時間)	ワークショップ	ムーンライトマラソンのチャンスを活かそう②	伊敷豊
	2007年10月13日(土)	11:30～12:00 (0.5時間)	個別指導	特産品に関する個別指導	伊敷豊
第2次	2007年10月26日(金)	13:00～19:00 (6時間)	個別指導	ムーンライトマラソン実地指導・サポート	
	2007年10月27日(土)	14:00～17:00 (3時間)	個別指導	ムーンライトマラソン実地指導・サポート	
	2007年10月28日(日)	08:00～14:00 (6時間)	個別指導	ムーンライトマラソン実地指導・サポート	
第3次	2008年03月11日(火)	15:00～18:00 (3時間)	講習会	パッケージデザイン	
	2008年03月12日(水)	08:00～09:00 (1時間)	講習会	パッケージデザイン	

(2) 成果

- ・3点の新商品が生まれた（黒糖キャラメルパウンドケーキ、紅いもコーヒー、紅いもチップス）。
- ・2週間のみの準備期間の後、ムーンライトマラソン開催時にテストマーケティングを実施した。このイベントにあわせて港ターミナル内に土産物品店が開店し、2日間で12万円弱の売上があった。また、黒糖キャラメルパウンドケーキは約120箱が完売した。このことが近隣の店舗にもよい刺激となった。
- ・ゆいレール県庁前駅「ぷち離島フェア」で黒糖キャラメルパウンドケーキと紅いもチップスが50個ずつ完売した。イベント出展中にバイヤーからの引き合いがあった
- ・行政担当者と民間事業者の意思の疎通と連携が始まった。行政担当者から、「当初面倒な事業だと思ったが、取り組んでよかった」との声があった。

(3) 課題

- ・行政と民間事業者が一体となつての成功モデルづくり（マーケティング、ブランディング、直販など販路拡大etc.）と、やる気を他の人々にも波及させていく場づくり。

2) 派遣内容

(1) 事前ヒアリング

- ・ワークショップ形式の会議をもち、伊平屋の特産品分野において熱意をもって中心的な役割を果たしているメンバーの掘り起こしを行った。その結果、農園および特産品販売の大見謝さん、菓子類製造販売の藤田さん、漁協の斉藤さん、JA女性部伊礼さん他の皆さんの取り組みがわかり、特産品や観光をめぐる現状と課題を把握することができた。
- ・また、第1次派遣では、商品開発やマーケティングの専門家であり沖縄で数多くの実績を上げている伊敷豊氏の講演会により専門知識を提供し、さらにあわせてワークショップと個別相談を開催して「では、伊平屋ではどうする？」という疑問に具体的に応えることとした。

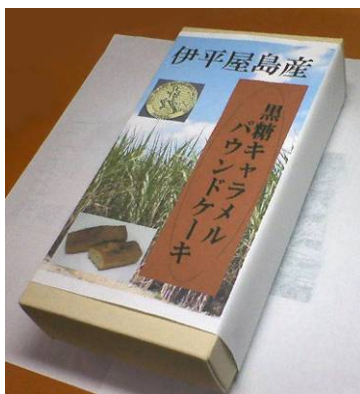
(2) 第1次派遣

- ・第1次派遣では、マーケティング専門家の伊敷豊氏の「売れる商品の作り方」に関する講演会と、「それでは島ではなにができるか？」をともに考えるワークショップを開催した。その結果、2週間後に開催されるムーンライトマラソンのチャンスを活かしてテストマーケティングを実施することになった。また、個別訪問として大見謝さんの農園を視察し、個別のアドバイスをを行った。



(3) 第2次派遣

- ・第1次派遣の後、港ターミナルの店舗づくりや商品のパッケージデザインづくりなどを現地で独自に進めていただき、適宜メールで伊敷氏など専門家のアドバイスを提供しながらマラソン当日の本番を迎えた。前日からお助け隊員を派遣し、店舗ディスプレイや実地販売等について具体的なアドバイスを提供した。その結果、約120箱の「黒糖キャラメル パウンドケーキ」を完売し、港ターミナル売店を約12万円弱の売上を上げることができた。2週間の準備期間でここまでこぎ着けたことは、参加者の自信にもつながった。



Before



After



・ 結果

- 「笑鼓」
 - 商品：黒糖キャラメル パウンドケーキ、生ジュース、紅芋チップ、サーターアンダギー、紅イモコーヒー、餃子のたれ、ラー油、クバのかご、生パパイヤ、島とうがらし、タームパイ、パン、まぜごはん
 - 売上金額：116,840 円
- 藤田食品
 - 商品：黒糖キャラメル パウンドケーキ 5 個入り 114 箱、8 個入り 4 袋、バラ売り 29 個。笑鼓にて 60 箱+4 袋、その他前泊スーパーや大会本部、JA はいさいスーパー等で販売。
 - プロモーションとして、①大会の副賞への無償提供 38 箱、②来賓、島外スタッフの茶菓子(本部買取)、③ポスター4 箇所(前泊公民館、笑鼓、前泊スーパー、ホテル西江)を実施。

(4) 第 3 次派遣

- ・ 第2次派遣の成果を受けて、より具体的なアドバイスの提供として、島の皆さんの要望が強い、パッケージデザインに関する講習会を開催した。パッケージデザインというのはあくまでも最終的な表現であり、その前提として、商品自体のコンセプト、買って欲しいターゲット層、売りたい場所（島内、県内、県外など）を充分に考える必要があり、それらをトータルに踏まえてデザインのテイスト、材質、形態を決定することが望ましいというアドバイスを、様々なコンセプトで制作された実際の県産品のパッケージのサンプルを見ながらひもといた。





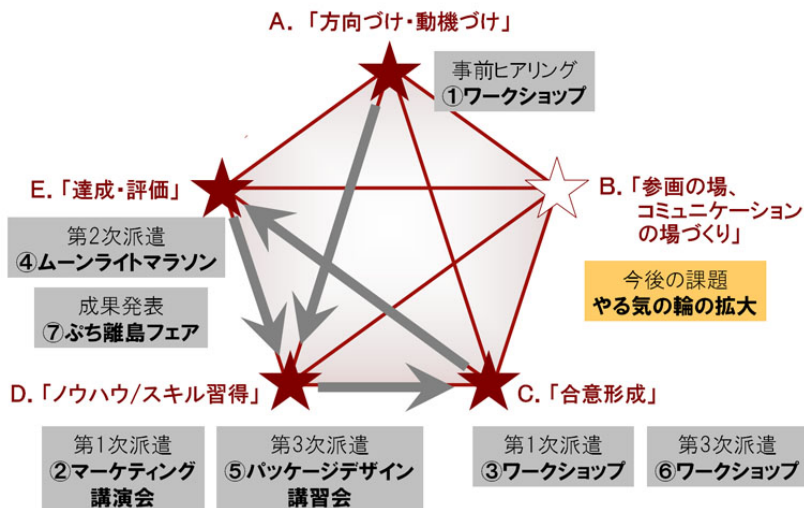
(5) 成果発表イベント「ぷち離島フェア」

- ・ ※詳細は51ページ参照

3) 事業進行プロセス評価

- ・ 伊平屋島の場合、五角形モデルに照らすと、以下のプロセスで事業が進行した。やる気のあるメンバーを対象に、A. → D. → C. → E. → D. → C. → E. のプロセスをサイクルとして実施して、成功モデルの創出を図った。このため、B. 「参画の場、コミュニケーションの場づくり」について、成功者・やる気あるメンバーの輪を広げることが今後の課題となった。

【離島活性化の五角形モデル】伊平屋島の場合



4) 参加者の声

- ・ ぷち離島フェア参加後のアンケートより
 - (最初に)「何がしたい？」と聞いてくれたことがとても嬉しかったです。「実践させてくれますか？」という言葉に快く応えてくれて、商品まで作り出すことができました。(印象に残ってい

るのは) いきなり 1 ヶ月もない短い時間を調整して快くムーンライトマラソン出展デビューさせてくれたことです。今までの講師の先生方だったら結果だけを聞き、その場の状況を判断しますが、いっしょにやることでその場の対応の仕方もお助け隊で教わった。ぷち離島フェアでは、他の離島との交流で商品の見せ方の勉強になった。商品売る場合のターゲットを決めることで、売れる商品を作り出せることがわかりました。(特産品・女性)

- ・独学では学べないノウハウ等いろいろなことを吸収して離島の可能性を確信することができました。同様の事業が今後もあることをのぞみます。(ぷち離島フェアでは) 試食への反応がよく見えた。バイヤーと接触できた。(製造業・男性)

2.1.2. 本部町(水納島)

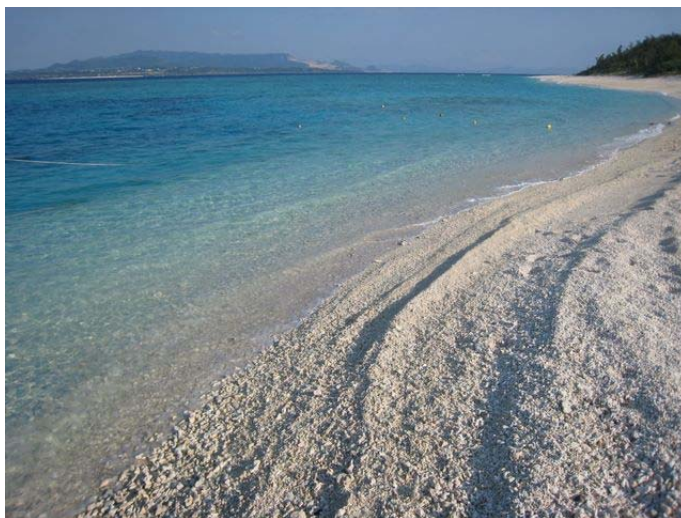
1) 派遣概要

(1) スケジュール

派遣	日付	時間	種類	内容	外部専門家
事前	2007年10月18日(木)	11:00～13:00 (2時間)	ワークショップ	島の現状とお助け隊事業の内容検討	伊敷豊
	2007年10月18日(木)	13:30～15:30 (2時間)	個別指導	ノニ茶・ノニジュースに関するアドバイス	伊敷豊
第1次	2007年12月07日(金)	14:00～16:00 (2時間)	その他	事前視察	坂本昭司
	2008年01月11日(金)	10:30～14:00 (3.5時間)	講習会	島の黒豆を活かした料理講習会	坂本昭司
	2008年01月11日(金)	14:30～18:00 (3.5時間)	講習会	島の黒豆を活かした料理講習会	坂本昭司
	2008年01月12日(土)	09:00～11:00 (2時間)	講習会	島の黒豆を活かした料理講習会	坂本昭司
第2次	2008年02月29日(金)	15:00～17:00 (2時間)	個別指導	商品化に向けたアドバイス	

(2) 成果

- ・島おこしに取り組む意欲ある中心人物が生まれた。
- ・黒豆りんごジャム、黒豆デニッシュ、黒豆あんパンといった新しい島の特産品として新商品が生まれた。これにより、黒豆を生産する高齢者の生産意欲が高まった。
- ・「ぷち離島フェア」では、売上実績 12,4670円と新商品の完売が、参加者のやる気と自信につながった。また、事前のメディア告知が奏功し、黒豆に興味を持って来場したお客さんが多かった。



(3) 課題

- ・新商品の今後の安定的な販路確保と安定的な黒豆生産（高齢者の皆さんの生産する喜びづくり）。パンの製造業者の確保。
- ・製造・加工施設の確保（島には公民館などの公共の調理施設がない）。

2) 派遣内容

(1) 事前ヒアリング

- ・昨年度事業IT分野で面識のある島の方々を中心に、宿泊業、農業、ダイビング業の関係者にお集まりいただき、ワークショップを開催した。特産品等に関する島の現状をヒアリングした結果、農業と観光業をリンクさせた島おこし策として「豆を活用した特産品づくり」についての要望があがった。水納島で生産される大根やニンジン等の根菜や葉野菜の品質は高い評価を得られているが、重量がかさむため農業に従事する高齢者にとって輸送、販売が難しく、比較的軽量の豆が換金可能な作物となれば高齢者の生きがいくつくりにもつながる。
- ・ワークショップ後に、すでにノニ茶、ノニジュースの製造・販売で実績のある有限会社コモンズさんを対象に、伊敷豊さんによる個別の指導を行った。



(2) 第1次派遣

- ・和洋を問わず薬膳にも造詣の深いシェフであるピザハウス常務の坂本昭司氏を専門家として派遣し、料理講習会を開催した。水納島で生産された豆類のうち、特に黒豆に注目して事前にレシピ（黒豆ジャム、黒豆プリン、黒豆アイス、黒豆板醤）を準備し、現地にて調理指導を行った。レシピの選定にあたっては、夏季にパーラーにて多くの集客が期待できる水納島の特性を考慮に入れて、デザート類に重点を置いた。講習会の最後に島の高齢者の皆さんも交えての試食会を開催して好評を博した。



いつもにこやかな坂本先生



まずは黒豆を煮る



柔らかくなったらミキサーに



次にペースト状に



薄切りのりんごでジャムの準備



容器は湯煎に



これからプリンを蒸すところ



島唐辛子ペーストと混ぜて豆板醬に



黒豆ジャム&プリンの完成品



手作りパンにジャムを乗せてみた



豆乳入り黒豆アイス



島のおばあさんたちと楽しい試食会

(3) 第2次派遣

- ・ 個別訪問を行い、前回の講習会の成果や島内の現実的な事情を踏まえ、商品化の方向性や具体的な商品形態、ゆいレール駅イベント「ぷち離島フェア」への出展等についてアドバイスを提供した。
- ・ 島で生産した黒豆を有限会社コモンズさんに提供し、同社が経営する「もとぶ食堂」にて商品を販売することになった。

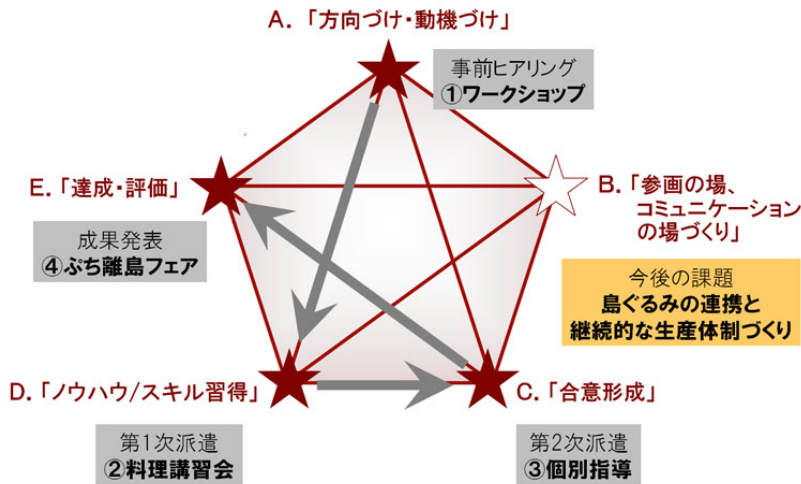
(4) 成果発表イベント「ぷち離島フェア」

- ・ ※詳細は51ページ参照

3) 事業進行プロセス評価

- ・ 水納島の場合、五角形モデルに照らすと、次ページのプロセスで事業が進行した。人口が50人に満たない小さな島の中で情報を共有して意識を高めるために、わかりやすく気軽に取り組める料理をとっかかりとして農産物の商品化に取り組んだ。不安と自信のなさから「ぷち離島フェア」への参画を踏みとどまりそうであった中心的メンバーを個別訪問で元気づけたことが、結果としてその後の小さな成功、自信とやる気アップにつながった。今後は、さらにB.「参画の場、コミュニケーションの場づくり」＝島ぐるみの連携と継続的な生産体制づくりをすすめることが課題となっている。

【離島活性化の五角形モデル】水納島の場合



4) 参加者の声

・ぶち離島フェア参加後のアンケートより。

- ・今、島でできることが見つかりました。島が活性化しそうな予感がしました。いつも前向きでとても励まされました。今回のぶち離島フェアもとても不安でしたが、参加でき、第一歩が踏み出せたように思います。(女性)
- ・今までバラバラだった島の人々が一つにまとまることができました。お助け隊の皆さまのおかげです。(印象的だったのは)島の良さを引き出して島のことを一緒に(それ以上に)考えていただけたこと。いろいろと励まされ感謝でいっぱいです。(女性)

2.1.3. 南城市(久高島)

1) 派遣概要

(1) スケジュール

派遣	日付	時間	種類	内容	外部専門家
事前	2007年08月30日(木)	15:00～17:00 (2時間)	ヒアリング	現状調査とテーマ設定	
第1次	2007年12月18日(火)	15:00～17:00 (2時間)	講習会	「もしも」の時に備えよう!	伊佐真人
	2007年12月18日(火)	17:00～18:00 (1時間)	ワークショップ	「もしも」の時に備えよう!	伊佐真人
	2007年12月19日(水)	09:30～11:30 (2時間)	講習会	緊急救命対処法	島尻消防署
第2次	2008年02月17日(日)	13:00～14:30 (1.5時間)	講習会	体験型観光向けの保険	大城敏夫
	2008年02月17日(日)	14:30～16:00 (1.5時間)	ワークショップ	体験型観光向けの保険	大城敏夫

(2) 成果

- ・ 体験交流型の観光がすでにスタートしている中で、懸案となっていたリスク管理、保険、救急救命法等の知識を提供できた。島尻消防との連携実績ができた。
- ・ 島内の関係者が久高の観光をともに考えるきっかけができた。

(3) 課題

- ・ 体験交流型観光の関係者間のコミュニケーション促進
- ・ 島を上げた体験交流型観光の受け皿（組織や仕組み）づくり、受け入れのルールづくり
- ・ 緊急連絡体制の確立と保険への共同加入

2) 派遣内容

(1) 事前ヒアリング

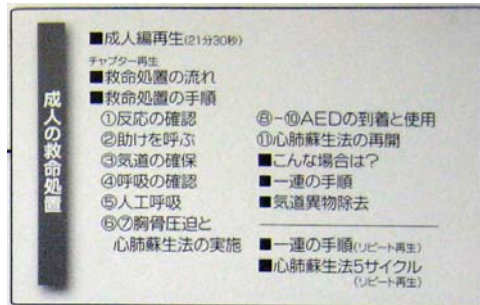
- ・ 久高区長西銘さんを対象に事前ヒアリングを実施した。久高島では体験交流型の観光プログラムがすでにいくつか始まっているが、その安全対策、リスク管理等に対する意識が高まっておらず、意識高揚と、具体的な救急救命法の修得が課題となっている。そこで、第1次派遣として、体験交流型観光の法規と保険に関しての専門家を派遣することになった。久高島は、前年度IT分野でお助け隊として訪問済みであり、西銘区長との情報・意識の共有化がすすんでいたため、具体的なプログラムの組み方まで確認することができた。
- ・ 久高島振興会でガイドをしている人や海人を対象に20名程度を対象として講演会を開催する。体験交流型観光の受入に関連する講義と、「久高の場合はどうするか？」を考えるワークショップを組み合わせる。さらに、島尻消防署に緊急救命対処法の講習会をお願いする。

(2) 第1次派遣

- ・ 県内で多くのマリネ体験関連事業を手がけて実績のある有限会社マリネパレットの伊佐真人氏を講師に迎え、体験型のツーリズム受入の際の留意すべき法規と保険に関する講演会を開催した。その後、久高島ではどうすべきかを考えるワークショップを実施した。



- また、島尻消防署のご協力を得て、心肺蘇生法（胸骨圧迫、人工呼吸、AED）の実習訓練を行った。ビデオによる解説の後、すべての参加者が消防署員のマンツーマンの指導で実際に心肺蘇生法を体験した。



(3) 第2次派遣

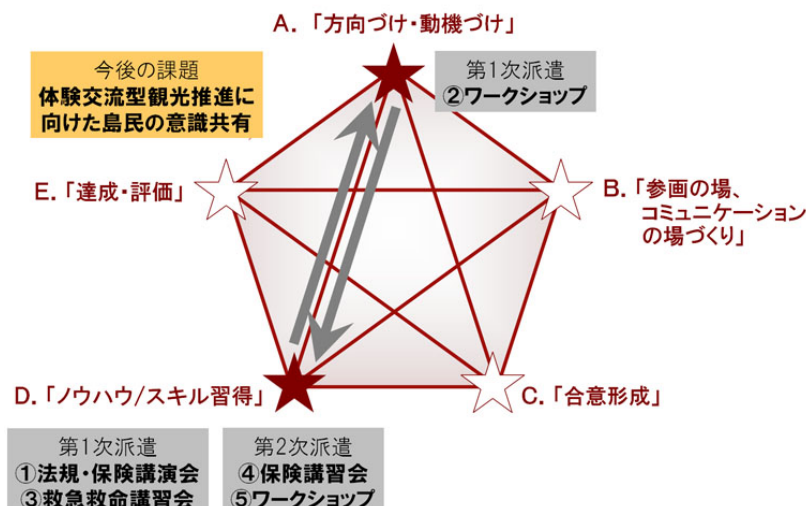
- 沖縄県内で修学旅行向け体験学習を提供している沖縄体験ニライカナイの大城敏夫氏を講師に迎え、体験型観光に必要な保険について、具体的な保険商品の種類や特徴について講習を行った。その後ワークショップ形式で、久高島の中で、事業者同士が協力して保険に加入するために必要なことや手順、おおよその保険料等について具体的に検討した。その結果、久高島でも事業者が組織的に協力してリスクマネジメントを行っていかうということになった。



3) 事業進行プロセス評価

- 久高島の場合、五角形モデルに照らすと、以下のプロセスで事業が進行した。西銘区長の明確な目的意識の元で、久高島の体験交流型観光の課題がハッキリしていたため、A.とD.にしぼった講演会、講習会、ワークショップの開催が可能であった。今後はさらに、体験交流型観光の推進に向けた島民の意識の共有、合意形成、組織づくり、成功モデルづくりなどが課題となっている。

【離島活性化の五角形モデル】久高島の場合



4) 参加者の声

- ・ 講習会&ワークショップに参加して
 - 勉強になりました。ありがとうございました。(観光ガイド男性)

2.1.4. 栗国村

1) 派遣概要

(1) スケジュール

派遣	日付	時間	種類	内容	外部専門家
事前	2007年09月28日(金)	13:30～15:30 (2時間)	ヒアリング	栗国のツーリズムに関するヒアリングと事業内容の検討	
第1次	2007年11月06日(火)	15:00～18:00 (3時間)	ワークショップ	“栗国ツーリズム”で島おこし！	
第2次	2008年01月09日(水)	15:00～17:00 (2時間)	講演会	“栗国ツーリズム”で島おこし！	津嘉山千代
	2008年01月09日(水)	19:30～22:30 (3時間)	ワークショップ	“栗国ツーリズム”で島おこし！	津嘉山千代
第3次	2008年01月16日(水)	20:00～23:00 (3時間)	その他	旧正月の栗国をPR！	

(2) 成果

- ・ この事業をきっかけとし、島内の様々な分野からの関係者（観光や文化、産業等分野における行政、団体、教育、民間等）が一堂に会した。
- ・ 他の島で農家民宿を経営してがんばっている講師の話が宿泊施設を営む方々をはじめ、多くの島の人の刺激になった。観光（栗国ツーリズム）に取り組もうという機運が生まれた。
- ・ 民宿関係者が初めて会合を持った。その結果として、マースヤー（旧正月行事）のガイドマップが作成された。

(3) 課題

- ・ 観光（栗国ツーリズム）を推進する組織と拠点施設づくり
- ・ 栗国の魅力ある資源の調査と、その資源を活かしたプログラムづくり。プロモーションや受入のためのツールづくり。マーケティング、プロモーション。
- ・ モニターツアーの実施など、実践による成功体験づくり。



2) 派遣内容

(1) 事前ヒアリング

- ・地域ツーリズム分野での島おこしを念頭に、関係する皆さんによるワークショップを開催し、島の観光に関する現状をヒアリングした。その結果を踏まえ、第1次派遣として関係者の意識高揚を図るため再度ワークショップを開催することになった。

(2) 第1次派遣

- ・日本エコツーリズム協会理事の開梨香による講演形式で、沖縄県内の地域ツーリズム先行事例や、地域ツーリズムの利点などについて紹介した。その後、「栗国においてツーリズムはどうあるべきか」についてワークショップ形式で話し合いを持ち、地域ツーリズムの推進には、役場と村民の連携強化をはじめ、村民の意識の向上が必要という認識が確認された。



(3) 第2次派遣

- ・第1次派遣の成果を踏まえ、宮古島で農家体験民宿として成功を収めている津嘉山荘の津嘉山千代氏を講師に迎えて講演会を開催し、地域ツーリズムの魅力と苦労話などを語っていただいた。出席者の皆さんは千代さんの明るく豪放な語り口にすっかり魅了されていた。



(4) 第3次派遣

- ・第2次派遣のワークショップを踏まえ、民宿の関係者が初めての話し合いを持つことになり、そのサポートのためにお助け隊を再度派遣した。旧正月期間中の宿泊客への正月料理の提供や、伝統行事マースヤーの案内マップを作成することなどが決まった。その後の実際のマップ作成について編集作業などをサポートした。関係者のやる気や達成感を高めるため、栗国の旧正月とそのガイドマップに関する取材依頼をマスコミに働きかけ、琉球新報・雑誌ハンズにて記事が掲載された。

4) 参加者の声

・津嘉山千代さん講演会アンケートより

- 大変良かったです。ただ講演で終わらせて欲しくない。点を線で繋ぐことが出来れば良いですね。
(50代・公務員)
- 楽しいね～。やはり食育は大事かなと感じました。(30代・主婦)
- とても素晴らしく良かったです。栗国ツーリズムのためにたくさんのヒントがありました。(20代・公務員)
- 感動した。参考になりました(70代・無職)
- 食育の大切さ、スローフードについても学ぶことが出来た(50代)
- 栗国もどうにかできる(40代・公務員)
- 素晴らしい講演会である。講師のパワフルさに感動した(60代・無職)
- 具体的な取り組みが聞けておおいに参考になった。やはり、楽しみながら、手間ひまかけて相手をもてなすということが大事(50代・公務員)
- 千代さんの生き方がグリーンツーリズムなのだと思った。小賢しい言葉も不要(50代・公務員)

2.1.5. 久米島町

1) 派遣概要

(1) スケジュール

派遣	日付	時間	種類	内容	外部専門家
事前	2007年10月02日(火)	15:00～17:30 (2.5時間)	ワークショップ	現状調査と目標設定	
第1次	2007年11月05日(月)	14:00～17:00 (3時間)	ワークショップ	久米島の中小製造業者が元気になる心おこし、心あわせ！	
	2007年11月09日(金)	11:00～14:00 (3時間)	個別指導	中小製造業者向け事業展開アドバイス	伊敷豊
	2007年11月09日(金)	15:00～18:00 (3時間)	個別指導	中小製造業者向けパッケージデザイン等アドバイス	伊敷豊
第2次	2008年02月18日(月)	15:00～18:00 (3時間)	ワークショップ	ぶち離島フェアへの出展に向けて	

(2) 成果

- ・新しい商品が開発された（ノニローション）。
- ・ぶち離島フェアの実績がやる気と自信につながった。直接お客さんと対面することで反応を知ることができた。実感できる成果があがった。
- ・役場と民間事業者がともに事業に参画し、連携・協働が強化された。
- ・中小製造事業者が自主的な会合を持つことにより、連携が始まった。

(3) 課題

- ・ 役場と民間事業者や中小製造事業者間の連携を継続的に発展させることによる実質的な推進母体づくりと、将来的な産業間の連携システムや久米島ブランドの構築。

2) 派遣内容

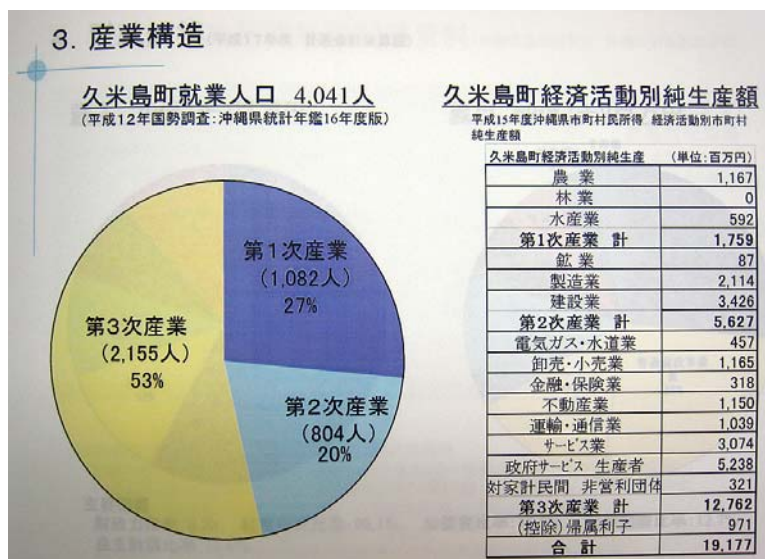
(1) 事前ヒアリング

- ・ 昨年度事業における「久米島ブランド化推進協議会」での議論を踏まえ、具体的な行動の進展を図るべく、協議会内で熱意のある中心的な皆さんにお集まりいただき話し合いを持った。その結果、久米島の特産品振興のためには、中小製造事業者の気持ちを盛り上げて連携を深める取り組みが必要との課題認識が確認された。



(2) 第1次派遣

- ・ 前回ヒアリング時のワークショップの結果を踏まえ、中小製造業事業者が元気になることが久米島の地域活性化につながるという視点から、また、話を拡散させずに着実な成果を上げるためにテーマを絞るというねらいから、中小製造業の事業者を中心に参加者を募ってワークショップを開催することになった。
- ・ あわせて希望者には伊敷豊氏の個別訪問/指導を提供することになった。
- ・ 久米島の産業の現状と問題点を確認し、今後どのような方向性でアクションを取るべきかについて議論した。その結果、今後、有志による勉強会を継続的に開催することで意見が一致し、具体的には農業と製造業の連携といったテーマでの勉強会を開催することになった。



協働を促すワークショップ

- ・ 第1次派遣の後、自主的な勉強会が2回開催され、中小製造業者が集まって話し合いを持った。

(3) 第2次派遣

- ・第1次派遣の後、自主的な勉強会が2回開催されものの、思いを形にする道筋が見えにくいことから、第2次派遣は再度お助け隊によるワークショップを開催した。その中で、3月末にゆいレール県庁前駅にて開催する物産展「ぷち離島フェア」について、その参画についての合意を図り、久米島としての出展内容(商品や展示品、クイズ企画など)を具体的に検討した。



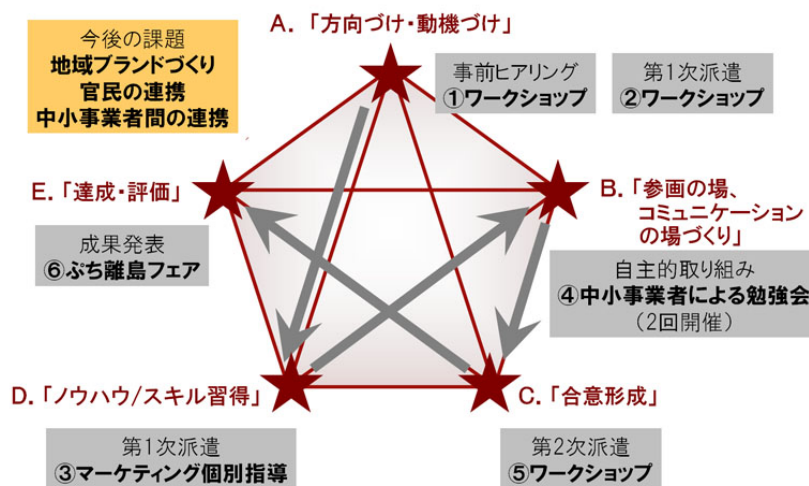
(4) 成果発表イベント「ぷち離島フェア」

- ・※詳細は51ページ参照

3) 事業進行プロセス評価

- ・久米島の場合、五角形モデルに照らすと、以下のプロセスで事業が進行した。
- ・もともと「久米島のブランド化」という大きなテーマだった昨年度本事業の議論を踏まえ、より具体的に「誰が何をやるのか」が見えるように対象・人数を絞りながらのワークショップ開催が中心になった。中小製造事業者主体が限定されてからは、個別指導、自主的な勉強会、ぷち離島フェアへの参画という流れができ、主体的な取り組みが生まれた。

【離島活性化の五角形モデル】久米島の場合



4) 参加者の声

- ・ぷち離島フェア開催前のアンケートから
 - ・久米島のメーカーにもっと参加して欲しいのだが、参加者が少ないのが残念です。ワークショップを通して久米島が活性化すれば参加者が増えると思うので、その時まで継続して欲しい。(物産関係・男性)
 - ・頭の中でモヤモヤしていたことが多々ありましたが、少しずつ整理されて良かったと思います。

あまり積極的な動きができなかったのが申し訳なく思っています。もっと私たちの意識改革の必要性を感じました！（製造業・女性）

- ・もう少し継続できたらいいな…。この度は本当にありがとうございました。（製造業・女性）
- ・これからも久米島の活性化に協力お願いします。（公務員・男性）
- ・明確なコンセプトが最初からあった方が方向性が早く決まったのではないかと。例として3月の展示に向けて島としての商品づくりとか…（観光施設・男性）

2.1.6. 北大東村

1) 派遣概要

(1) スケジュール

派遣	日付	時間	種類	内容	外部専門家
第1次	2007年10月19日(金)	19:00～22:00 (3時間)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり初級・中級	星公望
	2007年10月20日(土)	09:30～12:30 (3時間)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり中級・上級	星公望
	2007年10月20日(土)	15:00～16:30 (1.5時間)	ワークショップ	子ども向けおもちゃづくり	星公望
	2007年10月21日(日)	09:30～12:00 (2.5時間)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり上級	星公望
	2007年10月21日(日)	13:00～15:30 (2.5時間)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり上級	星公望
第2次	2007年12月14日(金)	19:00～22:30 (3.5時間)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり初級・上級	星公望
	2007年12月15日(土)	09:00～12:00 (3時間)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり上級	星公望
	2007年12月16日(日)	19:00～23:00 (4時間)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり上級	星公望
第3次	2008年02月11日(月)	19:00～21:00 (2時間)	ワークショップ	島の植物を活かした手工芸品の商品化	

(2) 成果

- ・沖縄ならではの島の植物を活かした手工芸の担い手が減少し、技術自体が急速に失われていく中で、遠く離れた西表島で伝承・発展されている技術を北大東島に移転できた。講習会参加者のノウハウとして着実に残すことができた。
- ・北大東ならではのタイリングットウを活かした手工芸品を商品化できた。大がかりな研究開発ではなく、いつでもどこでも誰でも少ない元手でできる商品が作れるようになった。島の人々（主婦や高齢者）に作る喜び、作ったものが売れる喜びを体験していただけた。
- ・手工芸品を商品化して販売していく取り組みの中心人物とチームが生まれた。ぷち離島フェアでの売上178,500円と完売の実績がやる気と自信につながった。オークションでタイリングットウのゴザに1万8千円の値段がつき、注文も取れた。

(3) 課題

- ・技術の向上による、商品の質の向上。
- ・今後、持続的、安定的に生産して販売するための体制と仕組みづくり。
- ・販売促進するためのプロモーション手法の習得。

2) 派遣内容

(1) 事前ヒアリング

- ・北大東村は派遣内容が昨年度から継続希望であったため、事前ヒアリングを電話のみで行い、計3回の本派遣とした。

(2) 第1次派遣

- ・昨年度の成果を踏まえてさらに技術の向上を目指す上級者向けの講習会と、島の植物を活用した手工芸品づくりの裾野をさらに広げるための初・中級向けの講習集会、および子ども向けのおもちゃづくりワークショップを行った。中心となる皆さんの技術習得の意欲が高く、タイリングットウのみならずアダンの根の縄づくりなども取り入れて充実した内容となった。





(3) 第2次派遣

第1次派遣をさらに発展させ、商品化に向けた細かな技術の修得や、作品のレパートリーの幅を広げる講習とした。大城さん、須貝さん他の中心となるメンバーの技術が向上しているの、商品化に向けた取り組みの素地が固まりつつあった。



(4) 第3次派遣

- ・今後、土産品、特産品としての商品化に向けてどのように取り組むかを考えるワークショップを開催した。具体的にアクションを起こすきっかけとして、ゆいレールイベント「ぷち離島フェア」に向けた準備作業について出展品目やスケジュール等を検討した。



(5) 成果発表イベント「ぷち離島フェア」

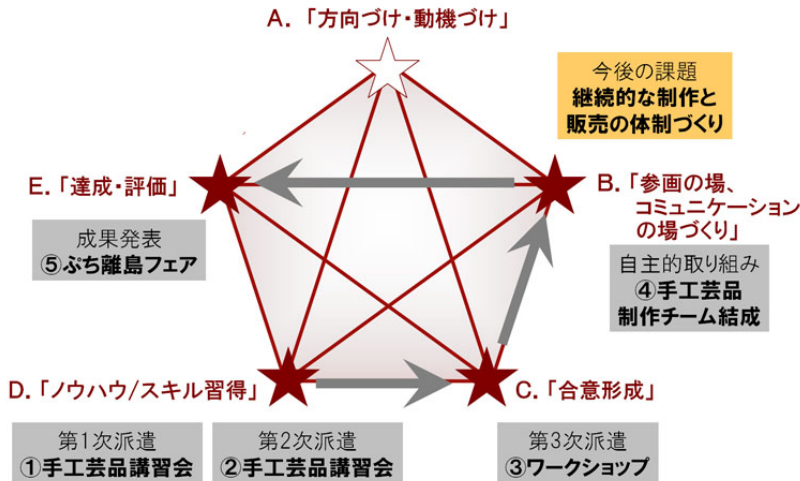
- ・※詳細は51ページ参照

3) 事業進行プロセス評価

- ・北大東島の場合、五角形モデルに照らすと、以下のプロセスで事業が進行した。昨年度から引き続

いての講習会だったので、参加者の目的意識もハッキリしていたため事前のワークショップは不要だった。講習会の後にぷち離島フェア参加に向けた合意を図るワークショップを開催した結果、手工芸品を制作するチームが結成されて、フェアでの販売品の制作に取り組むことになった。

【離島活性化の五角形モデル】北大東島の場合



4) 参加者の声

・講習会参加後のアンケートから

- ・今回3回目でアンティークバッグに挑戦しましたが、やっと完成にこぎ着けそうで、手工芸の難しさを感じながらも製品としての作品ができあがり、土産品づくりをやりたいという希望が形になりつつあるなあと感じました。回を重ねるごとに充実した講習会でとても良かったです。(宿泊業・女性)
- ・島内にある材料でいろいろなものが思いもかけない形に作れるのに、これまで何も知らずに見過ごしてきたのはとてももったいなく思いました。教えていただいたことを忘れずに、多くの方々にも作ってもらい、継続して特産品として残していくことができるよう協力していきたいと思います。(事務・女性)
- ・最初はすごく緊張していましたが、やさしいご指導と和やかな雰囲気のおかげで楽しく学習することができました。また島にある素材を利用した物作りはとても素敵だと思います。これからは一人でも多くの方が参加して技術を習得し、島の活性化につながればいいなあと思います。これから先、皆さんの作品がおみやげとして販売できるようになることを想像すると島が明るくなってくるようでワクワクします。(女性)

・「ぷち離島フェア」実施後のアンケートより

- ・身近にある物も工夫次第で島の特産になるということ。人まかせではなく自分から率先していくと必ず成果はあるのだと思う。さらに頑張ろうという気持ちになりました。(女性)

2.1.7. 南大東村

1) 派遣概要

(1) スケジュール

派遣	日付	時間	種類	内容	外部専門家
事前	2007年10月03日(水)	16:00～17:00 (1時間)	ヒアリング	ヒアリング	
	2007年10月03日(水)	17:00～20:00 (3時間)	ワークショップ	事業の説明と日程調整	
第1次	2007年10月14日(日)	15:00～17:00 (2時間)	ワークショップ	子ども向けおもちゃづくり	星公望・星昭子
	2007年10月15日(月)	10:30～12:00 (1.5時間)	ワークショップ	高齢者向けおもちゃづくり	星公望・星昭子
	2007年10月15日(月)	19:00～21:30 (2.5時間)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり初心者向け	星公望・星昭子
	2007年10月16日(火)	19:00～21:00 (2時間)	講習会	手工芸品づくり 指導者養成講座①	星公望・星昭子
	2007年10月17日(水)	19:00～21:30 (2.5時間)	講習会	手工芸品づくり 指導者養成講座②	星公望・星昭子
	2007年10月18日(木)	09:00～15:00 (6時間)	講習会	手工芸品づくり 指導者養成講座③	星公望
第2次	2007年12月18日(火)	19:00～22:00 (3時間)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり上級	星公望
	2007年12月19日(水)	19:00～22:00 (3時間)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり上級	星公望
	2007年12月20日(木)	14:00～17:00 (3時間)	講習会	島の植物を活かした手工芸品づくり上級	星公望

(2) 成果

- ・沖縄ならではの島の植物を活かした手工芸の担い手が減少し、技術自体が急速に失われていく中で、遠く離れた西表島で伝承・発展されている技術を南大東島に移転できた。講習会参加者のノウハウとして着実に残すことができた。島の皆さんに作る喜びを提供できた。
- ・島の植物を活かした手工芸品づくりに取り組むグループが生まれた。



(3) 課題

- ・技術の向上による、商品の質の向上。
- ・手工芸品の商品化と継続的に生産し販売する体制づくり。

2) 派遣内容

(1) 事前ヒアリング

- ・昨年度IT分野講習会で参加いただいた方々の他、手工芸品づくりに興味のある女性を中心に、各方面の皆さんに集まっていただき、ワークショップ形式の話し合いを持った。前年度の北大東での取

り組み他を紹介したところ、「まずはやってみたい」、「面白そうだ」、「これならたくさん人が集まる」という意見・要望が多く、実施の日取りや参加者募集方法まで具体的にとんとん拍子で話が進展した。

(2) 第1次派遣

- ・今回南大東村では初めての開催となるため、参加者には初・中・上級のコースをセットで3回受講することを奨励し、基礎から応用までを順を追って指導した。手工芸品づくりの楽しさを周知して裾野を広げるため、並行して高齢者向けデイサービスでのワークショップや、子ども向けワークショップも開催して好評を博した。
- ・南大東の皆さんも大変に習得の意欲が高く、毎回多くの参加者の出席があつて熱気あふれる講習会となった。



(3) 第2次派遣

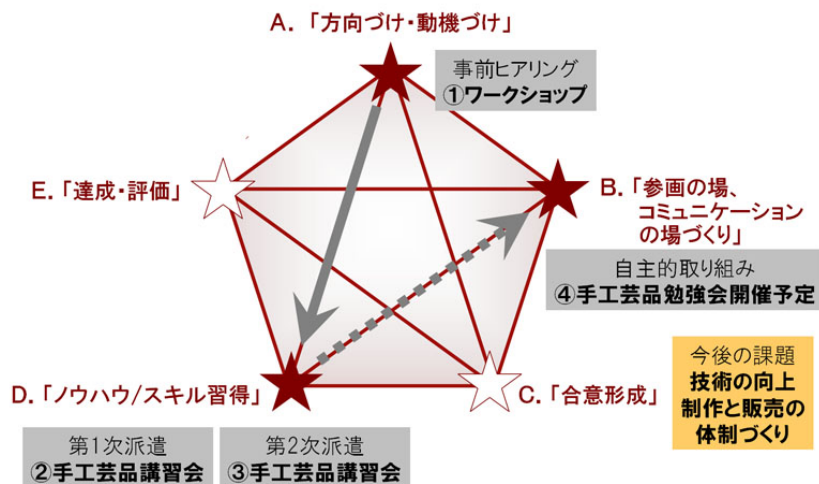
- ・第1次派遣の成果を受けて、さらに技術を向上させたい皆さんを対象に上級向け講習を行った（初めての参加者にも対応した）。ゲットウのマットを基本に、バリエーションの幅を広げてハンドバッグや、柄杓、リース、しめ縄などにも挑戦した。



3) 事業進行プロセス評価

- ・ 南大東島の場合、五角形モデルに照らすと、以下のプロセスで事業が進行した。
- ・ 事前ヒアリングにおいて手工芸品づくりの中心的役割を担うメンバーに集まっていたのでその後の話の展開が早かった。技術が手についてある程度の自信がついて初めて特産品化・商品化というステップにすすめるので、今回はぷち離島フェアの参加までは合意に至らなかった。今後、北大東と同様に制作者グループができて体制が整えば、商品化が展開するものと思われる。

【離島活性化の五角形モデル】 南大東島の場合



4) 参加者の声

- ・ はじめは島の植物を利用して特産品を作るという大きなテーマに気負いを感じていました。それを他の方にも伝えていかなければならないというプレッシャーもありましたが、始めてしまうと、そんなことを考えるまもなく夢中になっていました。
楽しくて、楽しくて、どんなものができあがるか楽しみでした。
作ってみるとみんな上等に見えて、これをもっと上手になって商品にできたら、本当に大東島の特産品になるはずと確信しました。
これからも定期的に集まって勉強会を繰り返していきたいです。
- ・ 今回の講習も前回同様とても有意義でした。とても楽しく、また、あまり交流のなかった方々との情報交換、知恵を出し合っの作品づくりは今後の手工芸品づくりにとってよい刺激になりました。

今回は是非竹細工を希望しますので、よろしくお願いします。

この講習で学べたことは、これからのこの島で生きていく元気になりました。もっとワザを手に入れていきたいです。日頃みんなと会うことがなく、こういう機会がないと顔も見ることはないのでたいへん嬉しかったです。今回は他の作品を作るよう今から練習してみます。(団体職員・女性)

- ・「何か特産品を作ろう」と思っても一人の力では形となることができなくて、今回いい機会ができ、先が少し見えてきてがんばれる力がついたと思います。(女性)
- ・いろいろなアイデアがわいて形にしていこうと心はずんで講習を終われます。役場の方々に感謝です。また工芸だけでなく食べ物など大東の素材を活かせる活動があったら参加したいです。(女性)
- ・今回の講習を受講して、今まで買っていたものが身近にあるもので作れるということがわかって自分で手作りしてみようという気持ちが強くなってきました。受講を重ねることにより希望がわいてくるように思います。忙しい中、大東島まで来てくださってありがとうございました。(女性)
- ・昔はサトウキビの生産のために植えられていたゲットウが時代の移り変わりとともに使われなくなり、ただ生えているだけの存在になっていました。いつもそれを見て何かに利用できないものかと思っていました。今回このような講習会に参加できて本当に良かったと思います。初めてでもマットを作ることができました。あまり形が良くなかったけど、とても嬉しかったです。またバナナの皮でも何かできないかな～と思っています。本当にありがとうございました。(女性)

2.1.8. 竹富町(波照間島・黒島・西表島)

1) 派遣概要

(1) スケジュール

島名	派遣	日付	時間	種類	内容	外部専門家
	事前	2007年09月11日(火)	12:00～13:30 (1.5時間)	ヒアリング	現状調査	
波照間島	第1次	2007年12月15日(土)	19:00～20:00 (1時間)	講演会	離島ツーリズムの魅力と課題	竹内栄二
		2007年12月15日(土)	20:00～21:00 (1時間)	講演会	ツーリズム受入時の法規と保険	下平久人
		2007年12月16日(日)	09:30～12:00 (2.5時間)	ワークショップ	体験滞在交流型観光 波照間のケースを考える	下平久人・竹内栄二
		2007年12月16日(日)	19:00～20:00 (1時間)	講演会	離島ツーリズムの魅力と課題	竹内栄二
黒島	第1次	2007年12月16日(日)	20:00～21:00 (1時間)	講演会	ツーリズム受入時の法規と保険	下平久人
		2007年12月17日(月)	09:30～11:00 (1.5時間)	ワークショップ	黒島のケースを考える	下平久人・竹内栄二
		2008年03月20日(木)	14:30～17:00 (2.5時間)	ワークショップ	西表らしさを活かした滞在型・体験型のツーリズムの今後	

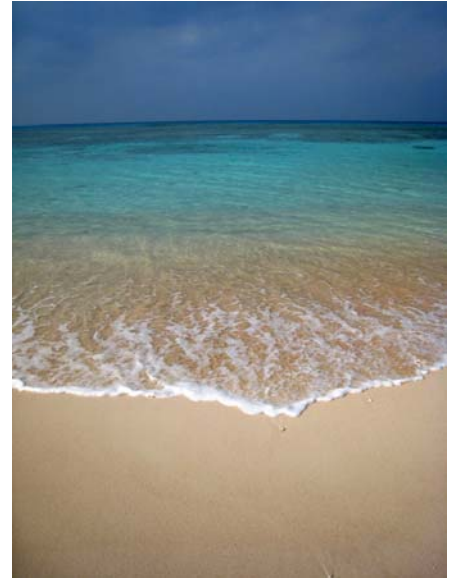
(2) 成果

- ・マストゥーリズム型観光事業者とエコツーリズム事業者が同じテーブルについて話し合いを持ち、ひとつの組織を作って受け入れ体制とルールを整備し、滞在型観光の推進に向けて取り組んでいくことの合意が形成された。(西表島)

- ・今回、波照間島と黒島は初めてかつ1回のみでの訪問となったため、地元の皆さんとの情報や意識の共有が充分でなかったのが反省点である。
- ・波照間島星空観測センターの阿利さんを中心とした若者達や、もちきび生産農家の方々などとコンタクトが取れ、意欲ある取り組みについて聞くことができた。(波照間島)

(3) 課題

- ・島内事業者の連携や、滞在型観光を推進して行くにあたっての人材確保と育成、ルールづくり。滞在型観光のプログラムづくりと質の向上（西表島）。
- ・島ぐるみで観光の質を向上させ、持続的に滞在型観光を推進するための、島内関係者間の意識の共有。(波照間島・黒島)



2) 派遣内容

(1) 事前ヒアリング

- ・竹富町は、大小16の島々（うち有人島は8）からなるため、どの島を対象にどのような専門家派遣を行うかのヒアリングは、竹富町役場商工観光課（石垣島在）にて実施した。その結果、それぞれの島の観光業の内実は役場でもすべて把握できているわけではないので、まずは1次派遣として波照間島、黒島において講演会等を行い、その中で次のステップを検討することになった。

(2) 第1次派遣(波照間島)

- ・社団法人日本旅行業協会 法務担当部長兼消費者相談室長の下平久人氏および沖縄送客実績第3位の旅行代理店キースエンタープライズ代表取締役竹内栄二氏による講演会を開催した。下平氏は、旅行業における法規やトラブル事例の専門家で、多くの旅行関係のクレーム処理の経験があり、その経験を踏まえた参考事例の紹介となった。竹内氏は、ご自身のこれまでのプロフィール紹介と沖縄の離島の魅力についての旅行者としての視点を提供する内容となった。



日本「最南端」の碑にて

- ・講演の後、ワークショップ形式で講演者と参加者による質疑応答や個別の事例検証などを行った。波照間島では、具体的に星空観測センターの誘客促進についての個別アドバイスや、観光業の現状と課題、今後の島内の連携体制づくりについての話し合いを行った。

(3) 第1次派遣(黒島)

- ・波照間島同様下平久人氏竹内栄二氏による講演会を開催した。講演後にワークショップ形式で講演

者と参加者による質疑応答や個別の事例検証などを行った。

(4) 第1次派遣(西表島)

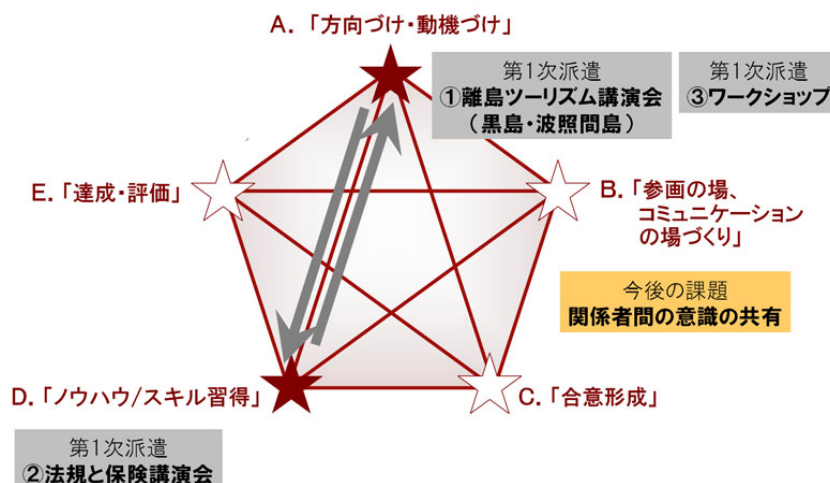
- ・2008年3月に実施された竹富町の事業、「西表・島学校」を踏まえて、西表らしいツーリズムの確立に向けた現状認識と課題整理のためのワークショップを実施した。その結果、今後の島学校展開の方向性と、西表島にも観光協会のような組織が必要であるという認識が共有された。また、組織化に向けた具体的なアクションについても検討した。
- ・国内のエコツーリズムの先進地であり、かつ年間40万人以上の周遊観光客が訪れるマストツーリズムのデスティネーションでありながら、なかなかエコツーリズム協会と観光事業者の建設的な話し合いの場がなかった西表島で、関係者が共通の組織のあり方等について論じた意義は大きい。



3) 事業進行プロセス評価

- ・波照間島・黒島の場合、五角形モデルに照らすと、以下のプロセスで事業が進行した。
- ・事前ヒアリングのための訪問なしに第1次派遣を実施した。島の中心メンバーとのコミュニケーションがとれないまま講演会・ワークショップを実施したため、島が本当に必要とする内容まで踏み込めなかった感がある。今後は、島側とのコミュニケーションを充分にとり、信頼関係をしっかりと構築した上で、支援プログラムを実施するという基本に忠実になることが反省点である。

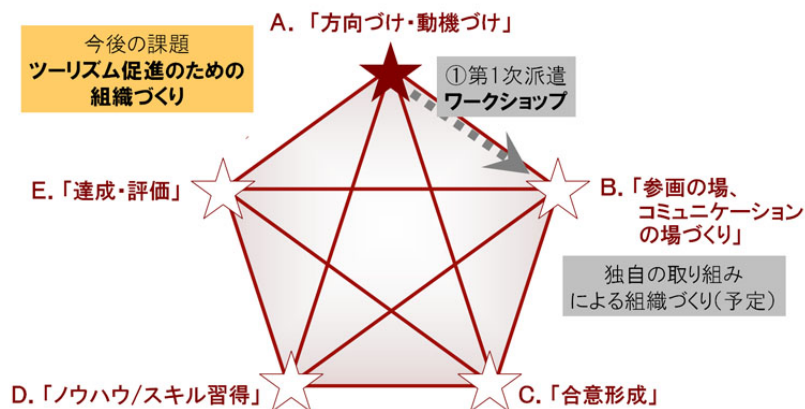
【離島活性化の五角形モデル】 竹富町(黒島・波照間島)の場合



- ・西表島の場合、五角形モデルに照らすと、以下のプロセスで事業が進行した。
- ・西表島で参集いただいたメンバーは、これまで10年にわたって関わりのあった方々なので、信頼関係ができており、事前ヒアリングの必要はなかった。現状を確認し、課題を洗い出して、アクショ

ンを決めるという課題解決型のワークショップを開催したことで、島の観光事業者の新たな組織づくりという共通認識と合意が得られた。

【離島活性化の五角形モデル】竹富町(西表島)の場合



4) 参加者の声

- ・ 西表島でのワークショップ終了後のアンケートより。
 - 是非協力していただきたい。(自営業・女性)
 - 長期的に続けて欲しい(観光業・男性)

2.1.9. 与那国町

1) 派遣概要

(1) スケジュール

派遣	日付	時間	種類	内容	外部専門家
事前	2007年09月11日(火)	18:00～18:30 (0.5時間)	ヒアリング	現状調査	
	2007年09月11日(火)	20:00～22:00 (2時間)	ワークショップ	現状調査とテーマ設定	
第1次	2007年11月16日(金)	17:00～19:00 (2時間)	その他	ヒアリング調査・現状視察	山城克己
	2007年11月18日(日)	13:00～15:00 (2時間)	講演会	修学旅行の受入を考える	山城克己
	2007年11月18日(日)	15:00～16:00 (1時間)	ワークショップ	修学旅行の受入を考える	山城克己
第2次	2008年03月31日(月)	19:30～20:00 (0.5時間)	講演会	修学旅行の受入を考える	山城克己
	2008年03月31日(月)	20:00～22:00 (2時間)	ワークショップ	修学旅行の受入を考える	山城克己

(2) 成果

- ・何から初めていいかわからないぐらいの手探りだった比川地区の皆さんに修学旅行受入・民泊に関する知識を提供できた。
- ・地域の皆さんの間で問題意識が生まれ、共有することができた。

(3) 課題

- ・コミュニケーションの輪を広げてさらに多数の住民の参画を得ること。
- ・比川地区が経済的に活性化するための継続的な島おこしの取り組み。

2) 派遣内容

(1) 事前ヒアリング

- ・与那国町役場との調整の中で町内比川地区の活性化支援の要請があったため、事前ヒアリングの機会を活用して、比川自治公民館の役員他、地域の主要メンバーの皆さんにお集まりいただいてワークショップを開催し、現状と課題について把握した。その中で、4月に修学旅行生の受入を予定していることから、本事業では修学旅行の受入に関する支援を行うことになった。

(2) 第1次派遣

- ・講演会に先立ち、役場の担当課長他の皆さんに与那国島の産業の状況や、比川地区の活性化の現状と課題についてヒアリングを行った。
- ・伊江島で修学旅行の民泊事業を成功させている伊江島観光協会の山城克己会長を講師に迎え、修学旅行受入のメリットや課題についての講演会を開催した。比川のみならず、島内各地から観光業関係者等の出席があった。山城会長の実体験に基づいた迫力のある講演に、参加者の皆さんも大きな感銘を受けていた。
- ・その後、引き続き比川地区での修学旅行受入についての共通認識づくりのワークショップを開催した。山城会長の講演によって修学旅行の受入についての理解が進み、具体的なイメージがわいたことで、これまでより議論が深まった。また、先駆者である山城会長の適切なアドバイスを提供することができた。



Dr. コトー診療所のセット



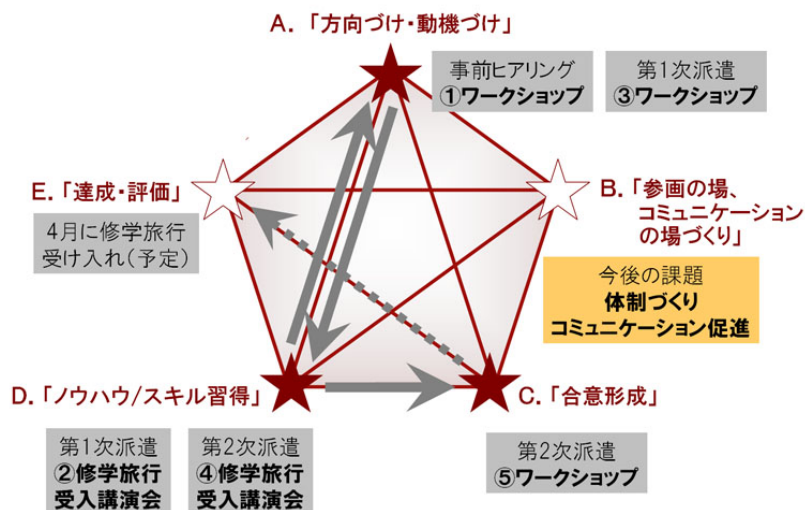
(3) 第2次派遣

- ・4月22日～25日の東京都立杉並工業高校の修学旅行（男子129名、女子9名、合計138名予定）の受入を目前に控え、第1次派遣後の準備進捗を確認した。また、比川地区の地域おこしの課題についてざっくばらんな意見交換をした。
- ・それに先立ち、山城氏には前回第1次派遣時の講演内容をかいつまんでお話しいただいた。

3) 事業進行プロセス評価

- ・与那国島の場合、五角形モデルに照らすと、以下のプロセスで事業が進行した。
- ・事前ヒアリングでのワークショップ、第1次派遣での講演会とワークショップの組み合わせ、第2次派遣での講演会とワークショップの組み合わせというプログラムを提供することで、地域の皆さんの意識あわせにじっくりと時間を割いた。4月に修学旅行を受け入れることが決まっていたので、それに向けた合意形成を行った。

【離島活性化の五角形モデル】 与那国島の場合



4) 参加者の声

- ・第2次派遣のワークショップ終了後のアンケートより。
 - 。いろいろとお世話になりました。やっともつれていた糸がほぐれてきたようです。次の公民館の総会で、うまく再出発ができれば…と思っています。(男性)
 - 。お助け隊の活躍の場があまりなくてすみませんでした。比川集落で今後、皆様を必要とする時期が来たときは再出動お願いします。(公務員・男性)

2.2. フォローアップ対象離島

2.2.1. 伊是名村

1) 派遣概要

(1) スケジュール

派遣	日付	時間	種類	内容	外部専門家
第1次	2008年03月18日(火)	17:00～18:00 (1時間)	講演会	修学旅行の受け入れについて	山城克己
第1次	2008年03月18日(火)	18:30～20:30 (2時間)	ワークショップ	修学旅行の受け入れについて	山城克己

(2) 成果

- ・ 修学旅行の民泊受入を目前に控え、必要事項の洗い出しと責任の所在、受け入れの役割分担を明確にして関係者間で共有することができた。

(3) 課題

- ・ 修学旅行の民泊受入に関する組織づくりなど。

2) 派遣内容

(1) 第1次派遣

- ・ 伊是名村では昨年度、本事業で特産品の活用、島の資源を活かした観光振興などのアドバイスをを行った。その後の動きとして商工会が主体となり、今年度3校の修学旅行を試験的に受け入れた。平成20年度は8校の受け入れがすでに決まっているが、受け入れの体制が未だ充分でないということで、関係者の意識の高揚を図り、修学旅行受入の留意点やノウハウを得るために、伊江島観光協会会長の山城克己氏を講師として講演会を開催した。



- ・ 講演会に先立って行われた島内の視察とヒアリングの結果、これまで伊江島で修学旅行の民泊を成功させている山城氏の目から見た伊是名の状況は、8校を安全かつスムーズに受け入れるだけの体制が整っていないということで、民泊の利点や喜びを伝える一方、危機管理や安全対策についても重点的に話題を提供した。
- ・ 講演会を受けて開催したワークショップでは、「どうやったら今年度の民泊受け入れをうまく進められるか」をテーマに、行政や商工会の担当者が異動になるという問題点や、受け入れの責任者が明

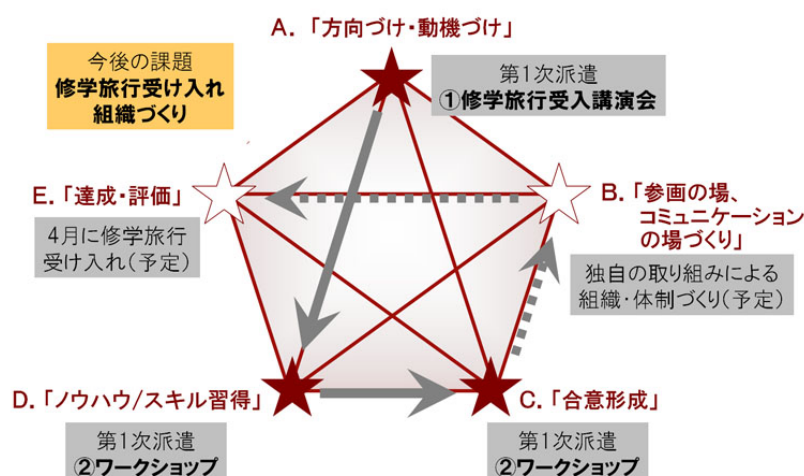
確になっておらず、このままでは4月に1校目を受け入れるにあたり危機的状況であるという現状認識を共有し、受け入れのための組織固めの方策について話し合いを行った。その結果、緊急体制で1校目の受け入れに向けた準備を進めることになった。誰が何をすべきかの役割分担と責任が明確になったことで、事業推進に向けた大きな一歩となった。



3) 事業進行プロセス評価

- ・伊是名島の場合、五角形モデルに照らすと、以下のプロセスで事業が進行した。
- ・4月に修学旅行の受入が決まっていながら体制がまったく整っていないという状況のもと、伊江島観光協会会長の山城氏の講演による動機付け、その後のワークショップによる質疑応答や問題・課題の整理、4月の受入に向けた体制固めの合意というプロセスとなった。

【離島活性化の五角形モデル】伊是名島の場合



4) 参加者の声

- ・ワークショップ終了後のアンケートから。
 - 今回の企画は時期的に見事なほどタイムリーでした。講師の山城さん、今後も指導等お願いします。(公務員・男性)
 - お助け隊員の皆さん方には感謝します。(民宿・女性)
 - 改善点、問題点を的確に捉えたワークショップ、講演会だった。(団体職員・男性)
 - たいへん良かったです。(サービス業・男性)

2.2.2. 伊江村

1) 派遣概要

(1) スケジュール

派遣	日付	時間	種類	内容	外部専門家
第1次	2008年03月17日(月)	19:00～21:00 (2時間)	ワークショップ	漁協観光部会の体制固め	

(2) 成果

- ・伊江村漁協の観光部会事業（修学旅行の体験プログラム受入等）について、今後の推進における中心人物と役割分担が明確になった。

(3) 課題

- ・持続的な運営体制（担当者の常駐）他。

2) 派遣内容

(1) 第1次派遣

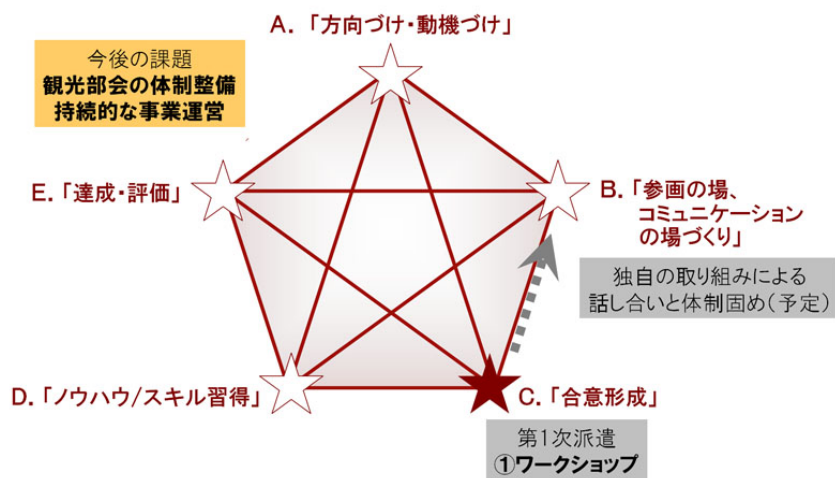
- ・伊江島では、昨年度本事業において修学旅行向けに海のパログラムを提供するために結成された漁業協同組合観光部会のあり方や方向性、具体的アクションについて検討するワークショップを実施した。その後、観光部会の事業の進展が思わしくなかったということで、今回のフォローアップでは、漁協のみでなく観光協会等の関係者も集まっていたいただき、再度ワークショップを開催して観光部会が抱える課題と体制固めのために必要なことを明確にし、意識の共有を図った。その結果、誰が何をすべきかの役割分担と責任が明確になり、今後、観光部会でさらに話し合いを重ねながら条件を整えることになった。これにより、事業推進に向けた大きな一歩となった。



3) 事業進行プロセス評価

- ・伊江島の場合、五角形モデルに照らすと、以下のプロセスで事業が進行した。
- ・昨年度の講演会・ワークショップで問題点、課題や方向性は整理済みであったため、今回のワークショップは合意形成を図る場となった。

【離島活性化の五角形モデル】伊江島の場合



4) 参加者の声

- ・ ワークショップ終了後のアンケートより。
 - 今後のためにも部会が一步前に進んだこと、良かったと思います。また飲み会でもしたいですね。
 - 又ノミネーション。

3. 成果発表イベント「ぷち離島フェア」



3.1. イベント開催結果

3.1.1. 開催概要

- ・平成18・19年度の本事業における各離島の取り組みの成果を発表するとともにテストマーケティング実施の場として、また離島間の交流を図る場として、沖縄都市モノレール（ゆいレール）県庁前駅で「ぷち離島フェア」を開催した。
- ・2日間の開催で4離島計60万円弱の売上があった。最初は尻込みしていた島もあったが、結果的に用意した商品が完売し、お客さんとの直接の触れあいや反響、バイヤーからの接触などが「自分たちでもできるんだ」という自信につながった。今回はテストマーケティングの一環であったため、人件費・交通費まで考慮すると黒字とは言えないが、自分たちで考え、作った商品を買って喜んでいただけたという喜びを味わうことが何よりの今後のやる気の原動力になった。それぞれの商品の今後の価格設定の参考となった。
- ・4離島でお手伝いした10の新開発商品他の販売を行った。



【開発を支援した新商品】紅イモコーヒー、紅イモチップス、黒糖キャラメルパウンドケーキ（以上伊平屋島）、黒豆りんごジャム、黒豆デニッシュ、黒豆あんパン（以上本部町水納島）、タイリングットウで編んだゴザとコースター、お守り袋（北大東島）、ノニローション（久米島）

タイトル： ぷち離島フェア

趣旨： 本事業の取り組みの成果発表及びテストマーケティングの実施

日時： 2008年03月28日（金）午前8時30分～午後8時

2008年03月29日（土）午前9時～午後8時

会場： 沖縄都市モノレール「ゆいレール」県庁前駅構内コンコース

※当日の乗降客数：3月28日（金）13,147名／3月29日（土）8,875名

参加離島： 伊平屋島、水納島（本部町）、久米島、北大東島

※その他の離島は地域ツーリズム紹介パネルを掲示した

内容： 各離島の特産品の展示即売

売上金額： 4島合計2日間で580,200円

告知： 新聞、雑誌、ラジオ、テレビにて事前及び当日のパブリシティを実施した他、チラシ2,000枚・ポスター40枚を作成して事前に関係各所で配布・掲示した。

3.1.2. 実施スケジュール

- ・開催日時と駅については、平日・休日両方の客層およびビジネス客・買い物客両方の客層にアプロ

一ちできること、日頃の乗降客数等を考慮して選定した。

- ・事前に各離島で実施したワークショップや講習会等の中でぶち離島フェアへの参画について確認したところ、4つの離島で出展の意向が確認できたため、約1ヶ月をかけて島側とお助け隊側でそれぞれ準備作業を行った。

◇当日のスケジュール

・ <27日>

- 14:00 設営
- 17:00 商品搬入

・ <28日>

- 07:30 集合・準備
- 08:30 オープニングセレモニー～販売開始
比嘉良雄沖縄都市モノレール社長ごあいさつ
沖縄県地域・離島課 館 圭輔課長ごあいさつ
- 20:00 終了
- 20:30 懇親会（近隣飲食店にて）

・ <29日>

- 09:00 販売開始
- 19:30 抽選会・クロージングセレモニー
- 20:00 終了



ぶち離島フェア告知ポスター

3.1.3. 各離島の出展状況

- ・本事業で開発した商品の他、すでに開発済みの特産品等を織り交ぜてのテストマーケティング実施となった。それぞれの島で、アンケートやクイズ、お楽しみ抽選などの工夫を凝らした。
- ・商品の販売時には、他の離島の商品情報も入った注文可能なチラシを配布することで、離島全体のアピールと後日の受注促進にも努めた。



1) 売上金額総括

	島名	総売上金額	出展商品数	スタッフ数
1	伊平屋島	69,450	3	4
2	水納島	124,670	12	6
3	久米島	207,580	10	6
4	北大東島	178,500	9	4
	合計	580,200	34	20

※2日間の合計金額。スタッフ数には短時間立ち寄ったお手伝いの方なども含める。

2) 島ごとの出展商品等

① 伊平屋島

- ・本事業で商品化のアドバイスをした黒糖キャラメルパウンドケーキや紅いもチップスが好評で早くに完売した。
- ・お楽しみ抽選会として、フェリーいへやペア往復券×2組、伊平屋特産品詰め合わせ（1,400円相当）×5名をプレゼントした（応募総数69名）。



② 水納島

- ・黒豆りんごジャムをはじめとして黒豆関連商品に対する関心が予想以上に高かった。乾燥豆の素材も完売した。
- ・プレゼントとして抽選で、貝殻詰め合わせ×3名、ポストカード×20名に提供した（応募総数106名）。



③ 久米島

- ・本事業で商品化のアドバイスをしたノニローションが完売した。立体的で視覚効果の高いディスプレイが人目を引き、他離島の参考になった。
- ・「久米島クイズ」を実施して、抽選で那覇久米島往復ペア航空券×1組、バーデハウス久米島ペア優待券×5組に提供した（応募総数31名）。



④ 北大東島

- ・本事業で2カ年にわたって技術指導したタイリングットウのゴザ（大サイズ×1・小サイズ×1）をオークションにかけた結果、大18,000円、小6,000円で落札したほか、コースターも完売した。



4.1.1. 支援プログラム参加者アンケート

原則として、参加者の皆さんには最終派遣時に定型のお助け隊アンケートに記入していただいた。栗国では講演会時に村役場側作成の独自アンケートを実施した。南北大東では自由記述式のアンケートをお願いした。その他、アンケートが回収できなかった支援プログラムもあった。

9つの島において計52通の回答を得た。

島名	回答数	
伊平屋島	2	■ ■
水納島	7	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■
久高島	4	■ ■ ■ ■
栗国島	9	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■
久米島	6	■ ■ ■ ■ ■ ■
西表島	5	■ ■ ■ ■ ■
与那国島	3	■ ■ ■
伊是名島	13	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■
伊江島	3	■ ■ ■
合計	52	

	回答数
講演会	25
講習会	11
ワークショップ	45

[illegible]

b. レベル

[illegible]

c. 分量・時間

[illegible]

d. 進め方

[illegible]

e. 説明

[illegible]

・ Q3. 今回の派遣事業の成果は何だと思えますか？（いくつでも○をつけてください）

	回答数	
1)興味があったことを知ることができた	18	■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
2)自分の知らなかった分野の知識・技術を得ることができた	19	■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
3)今後、仕事や生活、島おこしに役立てていける知識や技術が得られた	25	■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
4)以前から抱えていた問題が解決した、解決の糸口が見えた	22	■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
5)島民同士の交流が深まった	11	■■■■■■■■■■■
6)島民同士で同じ目標を持つことができた	12	■■■■■■■■■■■
7)関係者が連携して島おこしに取り組むきっかけができた	18	■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
8)島おこしのための組織や体制づくりに役立った	19	■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
9)面白かった	13	■■■■■■■■■■■■■
10)その他	0	

・ Q4. 今回の派遣事業の改善すべき点は何だと思いますか？（ご自由にお書きください）

- 特になし(水納島)
- 事前告知が弱かった(久高島)
- 行政側しっかり参加して下さい。(久高島)
- 前回・前々回参加した人は、できるだけ参加してもらい、どんどん発展させた方が良い。そのためには、事前に連絡をとり参加させる。(栗国島)
- 具体的な進め方(時間配分 e t c) (栗国島)
- 島の人に前もっての宿題がないのでワークショップになってから考えてしまうことが多いようだ。(栗国島)
- 島の主要なメンバーを「呼び出す」くらいでも構わないと思います。(栗国島)
- なし(栗国島)

- ・ Q5.総合的に見た満足度は？（どれかひとつに○をつけてください）

・ Q6.a. 今後もこのような事業があるとしたら、参加したいと思いますか？（どれかひとつに○をつけてください）

・ b. その場合、どんなテーマを取り扱って欲しいですか？（ご自由にお書きください）

- 57

・ Q7.その他、気づいた点や講師、お助け隊員へのメッセージなど、どんなことでもご自由にお書きください。

- どうもありがとうございました。(水納島)
- とてもおいしい料理をありがとうございました。(水納島)
- 勉強になりました。ありがとうございました。(久高島)
- 津嘉山千代さん期待通りとっても良かったです。ありがとうございました。
お疲れ様！
栗国の場合、分かるようにひっぱっていく人が少ない。
リーダーづくりもやっていかないといけないですね・・・。
その前に横のつながりから作っていかないといけないと思う。
そのために飲み会からやりますよ・・・。(栗国島)
- 島のことをしていくのは島の人だということを常に訴えて欲しい。(栗国島)
- 津嘉山さん有難うございました。(栗国島)
- まずは旧正月に参加して自分の目で見てもう一度声をかけてほしいです。(栗国島)
- 島民の積極性を高められることができればこれからのことも上手くいくような気がします・・・。
ヤル気をおこすために、そしてそのヤル気を広めていければいいのですが・・・。
お助け隊員の方々は大変なご苦労だったと思います。感謝します。ありがとうございます。今後ともよろしくお
願います。(栗国島)
- 一過性でなくずっとつづけてほしい。(栗国島)
- 明確なコンセプトが最初からあった方が、方向性が早く決まったのではないかな？と思う。例として3月の展示に
向けての島としての商品作りとか・・・(久米島)
- 久米島のメーカーにもっと参加してほしいのだが、参加者が少ないのは残念です。ワークショップを通して久米
島が活性化すれば参加者が増えると思うのでその時まで継続してほしい。(久米島)
- 頭の中でモヤモヤしていた事が多々ありましたが、少しずつ整理されて良かったと思います。あまり、積極的な
動きが出来なかったのが申し訳なく思っています。もっと、私達の意識改革の必要性を感じました。(久米島)
- もう少し継続できたらいいな・・・この度は本当に有難うございました。(久米島)
- これからも久米島の活性化に協力お願いします。(久米島)
- ぜひ協力して頂きたい。(西表島)
- 長期的に続けてほしい。(西表島)
- いろいろお世話になりました。やっと、もつれていた糸がほぐれてきたようです。次の公民館の総会で、うまく
再出発ができれば・・・と思っています。(与那国島)
- お助け隊の活躍の場があまりなくてすみませんでした。比川集落で今後、皆様を必要とする時期が来た時は、再
出動をお願いします。(与那国島)
- 官と民の連携体制づくり(伊是名島)
- 今回の企画は時期的に見事な程、タイムリーでした。講師の山城さん、今後も指導等お願いします。(伊是名島)
- お助け隊員の皆さん方には感謝します。(伊是名島)
- 改善点・問題点を的確に据えた、ワークショップ，講演会だった。地域おこしは、市町村の核となる人達に物事
を戦略的に考える知識が必要である。どのような事業を始めるにしても、その人達のレベルをあげなければ成功
は難しい。その地域の核となる人達向けの講習会や勉強会が必要だと思う。(伊是名島)
- たいへん良かったです。(伊是名島)
- F A Xが遅くなり申し訳ありませんでした。部会が今後の為にも一歩前に進んだ事良いと思います。又、飲み会
でもしたいですね。(伊江島)
- 又、ノミニケーション(伊江島)

2) 栗国島講演会アンケート

津嘉山千代さん講演会の後、栗国ツーリズム推進に関するアンケートを実施し、30通の回答を得た。

・ Q1.年代

	回答数	
20代	2	■
30代	1	■
40代	7	■■■■■
50代	14	■■■■■■■■■■■■■■
60代	4	■■■■
70代以上	2	■■
総計	30	

・ Q2.職業

	回答数	
会社員	2	■
公務員	15	■■■■■■■■■■■■■■■
自営業	2	■
主婦	4	■■■■
無職	4	■■■■
その他	2	■
未記入	1	■
総計	30	

・ Q3.栗国ツーリズムで必要な体験メニューは？

	回答数	
農業	21	■■■■■■■■■■■■■■■■■■■
加工品づくり	17	■■■■■■■■■■■■■■■■■
漁業	12	■■■■■■■■■■■■■■■
塩づくり	8	■■■■■■■■
工芸品づくり	3	■■■
その他	3	■■■

・ Q4.体験交流事業実現のために必要だと思われる施設や備品はありますか？

- 特に施設は必要ないと思う。民宿を勧める
- 施設は既存のもので充分、昔ながらの道具類
- 各民宿がその気になれば活用できるのでは・・・
- 宿泊施設
- ゆっくりくつろげるような宿泊
- 体験交流なので長期で宿泊出来るような場所
- 宿泊、体験、もちかえり
- 漁業（魚）料理できる施設
- 第1に宿泊施設、アドバイザー、講師（説明してもらう方）
- 研修施設
- 体験交流施設
- 農家を利用すればいいのでは・・・
- 宿泊場所、農業、漁場
- 民宿、牧場、加工施設
- カヌー、船、畑

・ Q5.その体験メニューを提供するためには、どのような人たちが関われると思いますか？

- 地元の人を中心に
- 島で健全に生活している人すべて
- 地域に住んでいる方ならどなたでも参加できると考えています。特に子供達に参加してもらい一緒に体験することができたら、子供達の食に関する興味・関心も高まり、食教育へと繋がると思います。
- 農業、漁業、民宿等のタイアップ
- 農協、漁協、塩工場の方々
- 興味を持った人→ボランティアであるなし問わず
- 生活改善グループを中心とする人達や地域のリーダー
- 生改のお母さん達
- 農漁村生活改善グループ等関心がある人に声をかける
- それぞれのプロ
- それぞれに興味をもって何でもこなせる方々
- 各種メニューの従事者及び地域住民ボランティア
- 調理師の資格
- 行政のサポートは大切

・ Q6.あなたは栗国ツーリズムにどのように関わりたいですか？

- 食育（食体験）地域の素材の掘り起こし
- 学校給食に携わっておりますので、学校給食に活かして行きたいです。
- 加工品のアイデアを出したい
- 自然の野草がまだ豊富にあるのでそれ
- 自分の出来る分野、やりたい分野で関わりたい
- ボランティアとして
- 一緒に手伝っていききたい
- 漁業
- 栗国に住んであまり何も知らない栗国なので一緒に遊び学びたいかな・・・
- ボランティアとして下準備
- 出来る限り
- 追い込み漁の体験学習に関わりたい
- 研修の手伝い
- ガイド
- 加工品づくりの体験をしたい

・ Q7.今回の講演会のご感想はいかがでしたか？

- 自分の足下をしっかりと見つめる(主婦)
- 大変良かったです。ただ講演で終わらせて欲しくない。点を線で繋ぐことが出来れば良いですね。(公務員)
- とても素晴らしく良かったです。栗国ツーリズムのためにたくさんのヒントがありました。(公務員)
- 食育の大切さ、スローフードについても学ぶことが出来た
- とても楽しく、笑える講話でした。宮古の津嘉山荘にも行きたくなりました。(会社員)
- とても楽しい講話でした(無職)
- 自生している(会社員)
- 千代さんの生き方がグリーンツーリズムなのだったと思った。小賢しい言葉も不要(公務員)
- 大変良かったです。(公務員)
- 大変充実した講話で内容も楽しかった(公務員)
- 栗国もどうにかできる(公務員)
- とても良かったと思う(公務員)
- 小さいことの積み重ね(公務員)
- 楽しくて頑張れそう(公務員)
- 感動した。参考になりました(無職)
- 一度行ってみたいです(主婦)
- 楽しいね～。やはり食育は大事かなと感じました。(主婦)
- 実体験に基づいた講話で大変良かったです。(公務員)
- 素晴らしい講演会である。講師のパワフルさに感動した(無職)
- 勉強になりました(公務員)
- 実行と行動力そしてプラス志向で明るく前向きに活動している(その他)
- 具体的な取り組みが聞けておおいに参考になった。やはり、楽しみながら、手間ひまかけて相手をもてなすということが大事(公務員)
- とても良かった(公務員)
- 人に物を教えるということではなく体験したいいい話を旨い語りで、お話なされたことは大変良かった(公務員)
- 講演者の考え、伝えたいことがはっきりしていてとても良かった(公務員)

4.1.2. ぶち離島フェア参加者アンケート

1) 終了後の参加者アンケート結果

ぶち離島フェア出展参加者を対象にアンケートを実施したところ、10通の回答があった。

◇ぶち離島フェアについて

◎あなたの商品について

・ Q1. 今回の出展の成果は何だと思いますか？

- 島内での販売の場合、島民の声が強く価格が低かったのですが、島外、県外の方にも買ってもらい自分の商品に自信が持てた。他の離島との交流で商品の見せ方の勉強になった(伊平屋島)
- 試食への反応がよく見えた。バイヤーと接触できた。(伊平屋島)
- 黒豆りんごジャムを教えていただき、島の婦人会で何度か試作し、素晴らしい特産品が完成し、間近でお客様の反応もうかがうことができ、本当によかったと思います。島が活性化しそうな予感がしました。(水納島)
- お助け隊の皆さまに指導を受けできあがった商品を、教えてくださったとおりにするだけでなく、それにつながる商品を何点か考えて一緒に出展できたこと。(水納島)
- 身近にある物も工夫次第で島の特産になるということ。人まかせではなく自分から率先していくと必ず成果はあるのだと思う。さらに頑張ろうという気持ちになりました。(北大東島)
- 北大東村の代表する月桃を出展しましたが、月桃が体によいものであるということをけっこう皆さんが知っていたということで商品を売ることができました。いい勉強になりました。(北大東島)
- 新商品のPR(ノニのイメージがあまりよくないけど説明することにより理解してもらえた)(久米島)
- たいへん良かった。(久米島)
- 日頃、あまり目が向けられていない離島の宣伝など。(久米島)
- 良かったと思う。(久米島)

・ Q2. 今回の出展の反省点は何だと思いますか？

- 自分の商品紹介のチラシを作って持ってくれば良かった。サービス券などを作って渡したら、島へ来る楽しさをあげることができたかも(伊平屋島)
- 数量の不足。販促への取り組み。(伊平屋島)
- お店の電話番号の連絡ミスや島ぞうりのサイズ違いなどお客様に買っていただく以上あってはいけないミスがありました。時間をかけて何度も点検できる余裕があればよかったと思います。(水納島)
- 早い時間から品切れになってしまい、お客様にご迷惑をかけてしまいました。(新聞を見て黒豆ジャムをわざわざ買いに来てくれた方々が品切れのため買うことができなかった)(水納島)
- 商品の説明の不足。(北大東島)
- 出展商品の効能をもっと説明できれば良かったと思います。初めての経験なので、どの商品をどれぐらい持ってくるのか2日間の数量が足りない部分もあったので、その点は反省点だと思います。(北大東島)
- 長丁場(久米島)
- 場所がチラシでわかりにくいとの声が多かった。(久米島)
- 各離島を1店舗と思い、違う離島で一緒に買う方が多かった。(久米島)
- 開始時間がもう少し遅くても良かった(久米島)

・ Q3. 今回の出展を踏まえ、今後どのような展開を考えていますか？

- 農園紹介などのチラシを作りたいと思います。そして本島の港にもそのチラシを置きたいと思いました。(伊平屋島)
- 本島への進出。イベントへの積極的な参加。(伊平屋島)
- 黒豆の増産ができるよう、島のおばあ達に働きかけ、少し若い婦人会でうまく販売できるようになればいいなと思います。(水納島)
- 島の農家の人が無理しないで黒豆など他の豆を栽培して島の作物で特産品を作り、活性化につなげていきたいです。(水納島)

- 月桃マットに興味のある人がいたのでゴザだけでなく、いろいろな大きさのマットを作っていく。(北大東島)
- 月桃のコースターやゴザなど時間をかけて、島の人々と作っていきたいと思います。できれば沖縄本島の店に商品としておけるといいなあと思いました。(北大東島)
- 売りやすい商品考案(久米島)
- 新しい商品開発(久米島)
- 新商品の開発をしたい。(久米島)
- 買いたい意欲を高めるような商品づくり(久米島)

◎ぱち離島フェア全体(企画・運営・告知など)について

・ Q4. 今回の成果は何だと思いますか？

- 新聞を見たという人もいて、また、イベントをする会場付近の方が来てくれたのを見ると、まわりへの告知は大事だと感じました。(伊平屋島)
- 離島間の交流ができた。客との対話がよくできた。(伊平屋島)
- お客様と話をしながら商品を見て買っていただけたこと。このことは私たち島の人だけでは企画運営できる物ではなく、お助け隊の方に声をかけていただけて参加でき、よかったと思います。(水納島)
- お客様に新しく作った黒豆リンゴジャムを喜んで買っていただけたこと。お客様の意見がじかに聞けて商品に対しての手応えが伝わってきました。(水納島)
- 北大東の月桃といってもピント来ない方も多くまだまだPR不足の面があるのもっと力を入れていきたいと思いました。自分だけではどうしてもできない部分はバックアップしていただきたい。ありがとうございました。(北大東島)
- なんでもお助け隊や他島の皆さんのご協力があったからこそ頑張って商品を売ることができました。ありがとうございました。(北大東島)
- 島や製品がPRできた。(久米島)
- 沖縄内でのピーアールができた。(久米島)
- 県内でのピーアール。(久米島)
- 普段なじみの薄い方にも知ってもらうことができた。(久米島)

・ Q5. 今後の改善点は何だと思いますか？

- その日の販売に集中しがちなので、その前の告知の仕方、またPRのためのチラシづくりをもう1度学べたらよいと思います。(伊平屋島)
- わしたショップ等バイヤーとの交流もセッティングしていただきたい(要望)(伊平屋島)
- 贅沢を言えば、もうあと少し広いスペースがあるとよかったかな。(水納島)
- 出展した商品をもっとアピールして自信を持って宣伝していくこと。販売用のスペースがもう少し大きくあればよかった。(水納島)
- 今回はギリギリの時間で商品を作ったり、準備したので、早くから手がけたいと思いました。(北大東島)
- 場所をもっとスペースとれるとよいかなと思った。(お客様がお互いにゆずりあうところがけっこう見うけられた)(久米島)
- 長期間(3年~10年)での展開が必要。新商品へのアドバイスの強化(久米島)
- 少しわかりやすくはば広く宣伝した方がよい(CMなどの宣伝)(久米島)
- 視野を広げ、誰でもなじみやすいものにした方がよい(久米島)

◇離島活性化専門家派遣事業について

◎これまでの「なんでもお助け隊」派遣全体を振り返って

・ Q6. あなたや島にとって何が成果となりましたか？

- 商品売る場合のターゲットを決めることで、売れる商品を作り出せることがわかりました。(伊平屋島)
- 商品化への取り組み方の確立(伊平屋島)
- 今、島でできることが見つかりました。(水納島)

- 今までバラバラだった島の人が一つにまとまることができました。(お助け隊の皆さまのおかげです)(水納島)
- 各島々にはこんなに自然を生かした物があるんだと思いました。また他島の人たちと交流できるのも良かったと思います。(北大東島)
- 島の業者で互いの意見交換ができた。(久米島)
- 久米島商品のピーアールになった。(久米島)
- 久米島の製品への理解を持ってもらえた。(久米島)
- 島や島の特産を知っていただくことができた。(久米島)

・ Q7. なんでもお助け隊™派遣で一番印象に残ったことは？

- 実践したいといきなり1ヶ月もない短い時間を調整して快くムーンライトマラソン出展デビューさせてくれたことです。今までの講師の先生方だったら結果だけを聞き、その場の状況を判断しますが、いっしょにやることでその場の対応の仕方もお助け隊で教わった(伊平屋島)
- ムーンライトマラソンでのスタッフの協力(お手伝い)(伊平屋島)
- 島人以上に島のことを考えていただけたこと。感謝！(水納島)
- 特産品の作り方や販売の仕方を指導していただけたこと。島の良さを引き出して島のことを一緒に(それ以上に)考えていただけたこと。(水納島)
- お助け隊の皆さんが第3者の目で見えてくれて、いろんなアドバイスやさくらにもなってくれ、ご協力に感謝しています。(北大東島)
- 各離島、みんな想いがあるのでみんな一生懸命で刺激されました。交流できたのも良かったです。(久米島)
- 島外からの目線での見方を聞くことができた(久米島)
- 買う立場(消費者)や島外からの視点がわかった。(久米島)
- 普段販売しているだけではわからないことが知ることができた。(久米島)

・ Q8. なんでもお助け隊™派遣で改善すべき点は？

- ないです。(伊平屋島)
- 単年度では成果が出ないので、複数年度に渡り継続的にフォローする事業にして欲しい。(伊平屋島)
- わかりません。(水納島)
- ありません。(水納島)
- 皆さんのチームワークの良さに感謝です。本島に皆が明るくて楽しかったです。ありがとうございました。(北大東島)
- 連絡体制。(基点になるのはどこか)たとえば役場ならそこを強調してやればもっと役場も責任感を持って対処できたのかな？(久米島)
- 回数(会議等)を増やす(久米島)
- 何回もくり返してもう少しアドバイスを！！(久米島)
- 見ていく人が足を止めていくようなアピールが必要(道行く人をひきつけるインパクトが欲しい)(久米島)

・ Q9. 今後同様の事業があるとすればどのような内容を？

- 今まで役場が選ぶ講習をいくつか受けてきましたが、お助け隊のように実践させてくれる事業は他にはありませんでした。今後は同様な事業があるとすれば、同じ会社での企画事業が必要だと思います。島にある野草を使った料理を作りたいと思いますが。(伊平屋島)
- ハード(物)、ソフト(ツーリズム等)両方の商品化と他県との連携をしてマーケティング等から本格的な流通まで一貫したアドバイス、フォロー、交流ができるような事業(伊平屋島)
- 引き続き、今、島でできそうなことのアドバイスを！そして今、島には公共スペースがなく、今回特産品を作るにも民宿のキッチンを借りなくてはいけませんでした。黒豆料理を定着させるためにも設備を整えるにはどうすればよいかなどのアドバイスを。(水納島)
- 今後も特産品づくり、販売の仕方など指導していく事業をお願いします。今、島には公民館などの施設もあります。今回の特産品づくりなどの活動に、小さくても施設があればすごく助かります。(水納島)
- 年に3~4回ぐらいはぶち離島フェアをしてもいいのかなあと思いました。人が集まるところで…(北大東島)
- 根本的な製品開発アドバイスや販路の拡大に向けたアドバイス(久米島)
- 販売(流通)へのアドバイス(久米島)
- もう少し大がかりな、わかりやすいイベント(久米島)
- 規模を拡大した大がかりなイベント(久米島)

・ Q10. その他なんでもお助け隊™に対してご自由に

- 役場に呼ばれて「何がしたい？」と聞いてくれたことがとても嬉しかったです。「実践させてくれますか？」という言葉に快く応えてくれて、商品まで作り出すことができました。ありがとうございます。(伊平屋島)
- たいへんお世話になりました。独学では学べないノウハウ等いろいろなことを吸収して離島の可能性を確信することができました。ありがとうございます。同様の事業が今後もあることをのぞみます。(伊平屋島)
- いつも前向きでとても励まされました。今回のぷち離島フェアもとても不安でしたが、参加でき、第一歩が踏み出せたように思います。(水納島)
- いろいろと励まされ感謝でいっぱいです。ありがとうございます。これからもアドバイスをお願いします。(水納島)
- 私は今回初めての経験なので理解不足で「離島フェア」に参加したので現場でお助け隊を知り、安心して商品を売ることができたし、また見られているという緊張感もありました。いろいろありがとうございました。(北大東島)
- 定着できるようになればよいと思います。個別指導も良かった。最後にこのような機会を設けていただき本当にありがとうございました。(久米島)
- 同事業を（3年～10年）で続けて欲しい。(久米島)
- またこういうことがあれば参加できるようにしたい。(久米島)
- またこのような機会があれば参加したい(久米島)